

## 循環型社会形成推進交付金等の実績報告及び額の確定マニュアル

### 1. 基本的な説明

- (1) 循環型社会形成推進交付金、廃棄物処理施設整備交付金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費交付金の事業実績報告については、「循環型社会形成推進交付金交付要綱」「廃棄物処理施設整備交付金交付要綱」「二酸化炭素排出抑制対策事業費交付金交付要綱」（以下「交付要綱」という）及び「循環型社会形成推進交付金交付取扱要領」「廃棄物処理施設整備交付金交付取扱要領」「二酸化炭素排出抑制対策事業費交付金（先進的設備導入推進事業）交付取扱要領」（以下「取扱要領」という）に基づいて行う。
- (2) 事業実績報告については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（以下「補助金適化法」という）第14条より、交付対象事業者（以下「事業主体」という）の義務として定められている。
- (3) 取扱要領11より、事業主体は事業の完了の日から起算して1か月を経過した日又は翌年度の4月10日のいずれか早い日までに様式第7「交付金事業実績報告書」を都道府県知事に提出しなければならない。
- (4) 様式第7「交付金事業実績報告書」は、様式7-1から7-3まであり、報告時はこれらを全て提出すること（ただし、様式7-3については、備考3に該当する場合、提出の必要はない）また、「交付金事業実績報告書」を提出する際、「事業費内訳書」も併せて提出すること。
- (5) 都道府県知事は定められた様式以外での事業実績報告を認めてはならない。
- (6) 交付決定された年度毎の様式7-1から7-3までを一式で作成すること。また、複数の事業、複数の予算区分（当初予算分や本省繰越予算分等）により交付決定がされている場合も、様式7-1及び様式7-3については1枚にまとめて作成し、様式7-2については、各事業・予算区分の執行金額等の確認のため、交付決定された事業・予算区分ごとに作成すること。
- (7) 翌年度への地方繰越を行う場合は、翌年度の事業完了の日から起算して1か月を経過した日又は当該事業完了日が属する年度の翌年度の4月10日のいずれか早い日までに事業実績報告を行う。なお、当年度中に一部の事業が完了していても、その他の事業において地方繰越を行うものがある場合には、繰り越し事業の完了後に、全ての事業を一括して事業実績報告を行う。また、交付対象事業の実施期間内において、国の会計年度が終了したときは、翌年度の4月30日までに様式第8「交付金事業年度終了実績報告書」を都道府県知事に提出しなければならない。

- (8) 都道府県知事は、補助金適化法第15条により、事業主体より交付金事業実績報告書の提出を受けた場合においては、報告書等の書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、実績報告の内容が交付金事業の交付の決定の内容及びこれに附した条件に適合するものであるかどうかを調査し、適合すると認めたときは、交付すべき交付金の額を確定し、当該事業主体に通知しなければならない。
- (9) 令和3年2月4日付け環循適発第2102043号環境省環境再生・資源循環局長通知「循環型社会形成推進交付金等の額の確定について」（以下「局長通知」という）の2より、都道府県知事が行う確定事務は交付金事業実績報告書受理後原則として20日以内に完了しなければならない。
- (10) 局長通知の3より、都道府県知事は交付額確定通知書（局長通知別紙様式(1)）を事業主体に交付した後速やかに、交付額確定報告として、局長通知別紙様式(3)に交付額確定通知書、交付金事業実績報告書及び事業費内訳書の写しを添えて環境大臣あて提出しなければならない。
- (11) 当年度において交付金事業を実施するものの、年度間調整（減額調整）により交付金の交付決定を受けていない事業主体にあっては、都道府県知事は当該事業主体に事業実績報告書を作成・提出させ、報告内容を確認するとともに、交付金事業の進捗状況を把握すること。この場合、額の確定及び環境大臣への確定報告は不要ない。（当年度が地域計画期間の最終年度であって、交付金の超過交付が生じた場合は別途返還のための手続きを要するので留意すること。）
- (12) 交付金の額の確定の結果、超過交付が生じた場合、事業主体は当該超過交付額を返還しなければならない。
- (13) 確定事務を行い返納すべき額が生じた場合には、交付額確定通知書の写を添付の上、局長通知別紙様式(2)による債権発生通知書を確定後速やかに歳入徴収官あて送付すること。
- (14) 事業主体及び都道府県は、参考資料の「循環型社会形成推進交付金事業チェックリスト（会計検査院チェックリスト）」、環境省循環型社会形成推進交付金サイトに公表している「会計検査 不当事項事案集」等を活用し、適正な交付対象金額の算出及び審査に務めること。

## 2. 各様式の作成例

### （1）交付金事業実績報告書

#### ①記載項目の説明

様式7-1から7-3の各種項目の説明

- ・①-1 令和n年度に交付決定を受け、令和n年度事業完了した場合  
(令和n+1年度へ繰越事業も含む。様式8については、(2)年度終了実績報告書参照)
- ・①-2 令和n-1年度に交付決定を受け、令和n年度に繰越をし、完了した場合

※様式 7-2、様式 7-3 に関しては、内容の重複又は特記事項がない場合は省略。

②個別記載例（年度間調整）

- ・今年度に年度間調整で増額する場合
- ・前年度の年度間調整で増額分を、今年度に減額する場合

③個別記載例（事業間調整）

- ・今年度に事業間調整をする場合
- ・前年度に事業間調整をした場合（当該年度は調整なし）

④個別記載例（地方繰越）

- ・繰越をする年度の場合
- ・事業を完了した年度の場合

⑤個別記載例（返還）

交付金の過年度の実績額を再確定し、返還を行う場合

（2）事業費内訳書

（3）年度終了実績報告書

様式 8-1 から 8-2 の各種項目の説明

（4）交付額確定通知書等

- ①返還が生じない場合
- ②返還が生じる場合

（5）交付額確定報告書

（6）実績報告及び額の確定提出前チェックリスト

（7）額の確定に係るフロー図

### 3. 参考資料

（1）循環型社会形成推進交付金等の額の確定について（令和 3 年 2 月 4 日付け環循適発  
第 2102043 号環境省環境再生・資源循環局長通知）

（2）循環型社会形成推進交付金事業チェックリスト（会計検査院チェックリスト）

①-1 記載事項の説明(令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合)

様式第 7 交付金事業実績報告書

様式 7-1

※1 識別番号  
文書番号  
令和〇年〇月〇日

知事殿

※2 申請者 △△市長 ○○○○

※3

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業実績報告書

※3

令和 n 年度において国庫交付金の交付を受けた標記事業を完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第 14 条の規定により、関係書類を添えて報告します。

1 事業主体名 :	△△市
2 循環型社会形成推進地域計画承認通知年月日 :	令和×年×月×日
3 循環型社会形成推進地域計画期間 :	令和×年度～×年度

※4

4 実績報告額表(※各財源別の金額を本表に全て記載すること)

※9

※10

(単位:千円)

※5 項目	※7 事業年度	申請額			実績額				※11 調整額 (C-B)	※12 事業終了まで の受入可能 額	※13 差引額 (A-C)	※14 備考
		交付対象事業 費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業 費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整に よる増額調整 後の交付金 額)(C)	交付金受入済 額				
令和 n 年度当初予算分	(地域計画期間 内の事業全体)	16,169,367	6,568,779									
		(過年度分)	2,542,363	968,611	968,611	968,611	968,611	968,611	0	0	0	
		(当該年度分)	4,444,111	2,034,419	2,034,419	4,399,111	2,019,419	2,019,419	0	0	15,000	
		(合計)	6,986,474	3,003,030	3,003,030	6,941,474	2,988,030	2,988,030	968,611	0	3,580,749	15,000
エネルギー回収型廃棄物 処理施設	RC～RO (RC～RO)	16,000,000	6,500,000									
		(過年度分)	2,500,000	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000	0	0	0	
		(当該年度分)	4,350,000	2,000,000	2,000,000	4,350,000	2,000,000	2,000,000	0	0	0	
		(合計)	6,850,000	2,950,000	2,950,000	6,850,000	2,950,000	2,950,000	950,000	0	3,550,000	
浄化槽設置整備事業	RC～RO	78,500	36,575									
		(過年度分)	24,072	11,966	11,966	24,072	11,966	11,966	0	0	0	
		(当該年度分)	27,700	11,315	11,315	27,700	11,315	11,315	0	0	0	
		(合計)	51,772	23,281	23,281	51,772	23,281	23,281	11,966	0	13,294	
公共浄化槽等整備推進事 業	RC～RO	30,867	12,204									
		(過年度分)	3,291	1,645	1,645	3,291	1,645	1,645	0	0	0	
		(当該年度分)	21,411	8,104	8,104	21,411	8,104	8,104	0	0	0	
		(合計)	24,702	9,749	9,749	24,702	9,749	9,749	1,645	0	2,455	
施設整備に関する計画支援 事業 (マテリアルリサイクル推進 施設)	RC～RO	60,000	20,000									
		(過年度分)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	0	0	0	過年度分5,000千 円は、 R(n-1)→Rnの 地方継越分
		(当該年度分)	45,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	0	0	0	
		(合計)	60,000	20,000	20,000	60,000	20,000	20,000	0	0	0	
施設整備に関する計画支援 事業 (エネルギー回収型廃棄物 処理施設)	RC～RO	60,000	20,000									
		(過年度分)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	0	0	0	当該年度分 15,000千円は、 Rn→R(n+1)の 地方継越分
		(当該年度分)	45,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	0	0	0	
		(合計)	60,000	20,000	20,000	60,000	20,000	20,000	0	0	15,000	
令和 n 年度(令和 n-1 年度から の当初予算継越分)	(地域計画期間 内の事業全体)	16,000,000	6,500,000									
		(過年度分)	2,500,000	950,000	950,000	2,500,000	950,000	950,000	950,000	0	0	
		(当該年度分)	4,000,000	1,425,000	1,425,000	4,000,000	1,425,000	1,425,000	0	0	0	
		(合計)	6,500,000	2,375,000	2,375,000	6,500,000	2,375,000	2,375,000	950,000	0	4,125,000	0
エネルギー回収型廃棄物 処理施設	RC～RO (RC～RO)	16,000,000	6,500,000									
		(過年度分)	2,500,000	950,000	950,000	2,500,000	950,000	950,000	950,000	0	0	0
		(当該年度分)	4,000,000	1,425,000	1,425,000	4,000,000	1,425,000	1,425,000	0	0	0	
		(合計)	6,500,000	2,375,000	2,375,000	6,500,000	2,375,000	2,375,000	950,000	0	4,125,000	

<想定状況> ※実際の報告書提出の際は、枠囲い等の加工は不要。

赤枠事業>>令和 7 (n) 年度交付決定分と令和 6 (n-1) 年度交付決定分の継越分により、令和 7 年度に実施した  
完了精算>>令和 8 年 3 月完了、4 月精算

※①-2 (P19 ~ P20) と同時に完了し、報告する想定。

青枠事業>>令和 7 年度交付決定分を、令和 8 年度に全額継越して実施する  
完了精算>>令和 9 年 3 月完了、4 月精算 (予定)

ほか事業>>令和 7 度交付決定分で、令和 7 年度に実施した  
完了精算>>令和 8 年 3 月完了、4 月精算

<提出書類> ※提出書類の判断については、P47「別添補足 額の確定に係るフロー図」を参照。

- 1 赤枠事業、ほか事業に係る 令和 7 年度の交付金事業実績報告(様式 7) . . . P 4 ~ P 18 参照
- 2 青枠事業に係る 令和 7 年度の交付金事業年度終了実績報告(様式 8) . . . P 19 ~ P 20 参照
- 3 赤枠事業に係る 令和 6 年度の交付金事業実績報告の再確定(様式 7) . . . P 37 ~ P 38 参照
- 4 青枠事業に係る 令和 8 年度の事業完了後、令和 7 年度の交付金事業実績報告の再確定(様式 7)

※4 は、上記 3 と類似する内容のため、本マニュアルでは省略する。

※15

(備考) 本様式に様式 7-2 及び様式 7-3 をあわせたものが報告書である。

※16

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先(電話番号・Eメールアドレス)



・当該年度分  
当該年度の交付決定に係る申請額・実績額を記載。

・合計 ※自動計算  
過年度分と当該年度分との合計。

※9

・申請額

「交付対象事業費」「交付金額」は、交付申請書様式1-2の交付対象事業費、交付金額(申請額)と合致させる。  
ただし、変更交付決定を受けている場合は、様式3の改交付決定額の(上段：交付対象事業費)(下段：国費)を記載。

「交付決定額(A)」には、事業主体に対する交付決定額(変更交付決定を受けている場合、変更交付決定額)を記載。過年度分の欄には過年度の申請額の合計を記載。

※10

・実績額

「交付対象事業費」は、執行した事業の交付対象事業費を記載。(様式7-2の当該年度事業に係る経費の配分の「交付対象事業費」と一致する。)

(様式7-1)

年 月	事業年度	申請額				実績額			
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額(A)	交付対象事業費	実績額	交付金額	交付対象事業費	実績額
平成30年1月～平成30年12月	平成30年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000
平成31年1月～平成31年12月	平成31年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000

(様式7-2)

各金額が一致する。 ・様式7-1の各予算区分の「交付対象事業費の合計」 ・様式7-2の当該年度事業に係る経費の配分の「交付対象事業費」
※令和5年度と5年度からの当初予算額
交付対象事業費 △=H-1
4,350,000

  

各金額が一致する。 ・様式7-1の各予算区分の「単年度交付額(B)」 ・様式7-2の「単年度交付額(実績)」
※令和5年度と5年度からの当初予算額
交付対象事業費 △=H-1
4,000,000

「単年度交付額(B)」は、交付対象事業費実績(過年度+当該年度)に交付率を乗じて算出した額から過年度受入済の交付金額を減額した額を記載。(原則、様式7-2の「単年度交付額(実績)」と一致する。)

ただし、施設整備事業においては、同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施した場合、様式7-2(施設)の「単年度交付額(実績)」は各予算区分の合計で自動計算されるが、**様式7-1においては、按分した金額を記載する**。このとき、様式7-1の各予算区分の「単年度交付額(B)」の合計と様式7-2の「単年度交付額(B)」は同一の額となる。

なお、過年度の年度間調整の増額分を当該年度で減額調整する場合は、記載方法が異なるため、後述の「②年度間調整の記載例※前年の増額分を減額する(調整2年目)」を参照すること。

(様式7-1)

年 月	事業年度	申請額				実績額			
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額(A)	交付対象事業費	実績額	交付金額	交付対象事業費	実績額
施設整備に関する予算区分	平成30年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000
上級小学校整備事業の内実績額	平成31年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000

(様式7-2)

各金額が一致する。 ・様式7-1の「単年度交付額(B)」 ・様式7-2の「単年度交付額(実績)」
※令和5年度と5年度からの当初予算額
単年度交付額(実績) △=H-1+△三
15,000

※同一の施設整備事業において、複数の予算区分で実施している場合  
(様式7-1)

年 月	事業年度	申請額				実績額			
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額(A)	交付対象事業費	実績額	交付金額	交付対象事業費	実績額
施設整備に関する予算区分	平成30年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000
上級小学校整備事業の内実績額	平成31年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000

(様式7-2)

各金額が一致する。 ・様式7-1の各予算区分の「単年度交付額(B)」の合計 ・様式7-2の「単年度交付額(実績)」
※令和5年度と5年度からの当初予算額
単年度交付額(実績) △=△一+△二+△三
3,425,000

  

各金額が一致する。 ・様式7-1の各予算区分の「単年度交付額(B)」の合計 ・様式7-2の「単年度交付額(実績)」
※令和6年度と6年度からの当初予算額
単年度交付額(実績) △=△一+△二+△三
3,425,000

「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」は、年度間調整・事業間調整後の当年度に実際に受け入れる交付金の実績額を記載。(様式7-2の「交付金額」と一致する。)

原則、「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」は、申請額欄の「交付金額」以下となる(事業間調整を実施する場合を除く)。

なお、事業間調整を実施する場合であっても、その予算区分の合計(当該年度分)では、「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」が申請額欄の「交付金額」以下となる。

(様式7-1)

年 月	事業年度	申請額				実績額			
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額(A)	交付対象事業費	実績額	交付金額	交付対象事業費	実績額
施設整備に関する予算区分	平成30年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000
上級小学校整備事業の内実績額	平成31年	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000	9,300,000	10,000,000	9,300,000

(様式7-2)

①原則、各金額が一致する。 ・様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C) ・様式7-2の「交付金額」
②原則、各金額が一致する。 ・交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C) ・申請額欄の「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」は申請額欄の「交付金額」以下となる。(事業間調整を実施する場合を除く)
※令和5年度と5年度からの当初予算額
交付金額 △=△一+△二+△三
2,000,000

  

①原則、各金額が一致する。 ・交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C) ・申請額欄の「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」は申請額欄の「交付金額」以下となる。(事業間調整を実施する場合を除く)
②原則、各金額が一致する。 ・交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C) ・申請額欄の「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」は申請額欄の「交付金額」以下となる。(事業間調整を実施する場合を除く)
※令和6年度(令和5年度からの当初予算額)
交付金額 △=△一+△二+△三
1,425,000

「交付金受入済額」は、過年度分の欄には、過去の交付金受入済額の合計を記載。当該年度分の欄には、当該年度における概算払いや部分払いを行っている場合はその額を記載する。(当該年度に概算払いや部分払いがなく精算払いであれば0を記載)。

※11

・調整額(C-B) ※自動計算

「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」から「単年度交付額(B)」を引いた額(=年度間調整額)。

(原則、様式7-2の「年度間調整による増額調整額」と一致する。)

なお、本調整額は、増額調整の場合はプラスの額、減額調整の場合(過年度の増額調整分を当年度において減じる場合)はマイナスの額となる(後述の「②年度間調整の記載例」を参照。)。ただし、予算財源別に見た事業主体全体の(合計)欄でマイナスの額となることはない。

また、同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施した場合、過年度分については按分せずにすべて同一の金額で記載されていることから、当該年度で調整する場合、2重調整にならないように注意すること。

(様式7-1)

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0

(様式7-2)

各金額が一致する。  
・様式7-1の「調整額(C-B)」  
・様式7-2の「年度間調整による増額調整額」

年度間調整による増額調整額  
△F

※同一の施設整備事業において、複数の予算区分で実施している場合  
(様式7-1)

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0

(様式7-2)

各金額が一致する。  
・様式7-1の「調整額(C-B)」  
・様式7-2の「年度間調整による増額調整額」

※減額調整の場合は、一致しないことに注意。  
各パートの記載例 ②年度間調整(減額調整)参照

※令和5年度当初予算分

年度間調整による増額調整額  
△F

※令和6年度(令和5年度からの当初予算繰越分)

年度間調整による増額調整額  
△F

※12

・事業終了までの受入可能額 ※自動計算

現地域計画期間内の事業終了までに申請可能な交付金額(年度間調整を含めた金額)の上限を確認するための記載事項。

「(地域計画期間内の事業全体)の交付金額」から「合計」欄の「単年度交付額(B)」及び「調整額(C-B)」を差し引いた額。

本受入れ可能額がマイナスの額となる場合は、年度間調整ができないのに調整しようとしている、過大申請状態である(返還、不用額等が発生する)。

また、後年度の交付申請において、この額を超えて過大に申請することがないように留意すること。

なお、同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施している場合、予算財源別に見た事業全体で状況を確認する必要がある。

(様式7-1)

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	0

マイナスの額とならないことを確認する。  
※マイナスの額となる場合は、過大申請状態である。  
(返還、不用額等が発生する)

※同一の施設整備事業において、複数の予算区分で実施している場合

(様式7-1)

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0

「交付金額(O)の過年度分及び當年度分の合計」(過年度分は累積計上しない)が  
(地域計画期間内の事業全体)の「交付金額」を超えていないこと。  
※超過しているとなる場合は、過大申請状態である  
(返還、不用額等が発生する)

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0

年 次	事業年度	申請額			実績額			調整額 (C-B)
		交付村農業費 額	交付金額 (A)	交付予算額 (B)	交付村農業費 額	実年次交付額 (C)	実年次予算額 (D)	
当年度	令和5年度	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0

※13

・差引額 ※自動計算

交付決定額に対して交付金実績額に差異がないか確認するための項目。

「交付決定額(A)」から「交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)」を引いた額。

地方繰越、不用額または返還額が発生するときにプラスの額となる。(差引額がマイナスの額となることはない。)

※14

・備考

年度間調整による増額調整、事業間調整、繰越(明許・事故)及び返還等がある場合、その内容を記載。(後述の「②～⑤個別記載例」を参照)

※15

この記載内容は実績報告書作成時においてはすべて削除してもよい。この記載内容を削除しない場合においては、記載されている様式に漏れが無いようにすること。

※16

文書の真正性を確保するため、申請書作成・提出に係る責任者及び担当者の氏名(フルネーム)、連絡先等を明記すること(責任者は文書管理責任者を想定している)。なお、公印を押印して提出する場合は記載しなくてもよい。

①-1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式 7-2

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）※1

(単位：千円)

同一事業を複数の予算区分で実施する場合、 ※12 → 各様式7-2で同一の金額 ※13 → それぞれの予算区分ごとに按分した額		交付金の算出方法	
施設区分（事業名）	エネルギー回収型廃棄物処理施設 ※2	交付限度額 $M = C \times 1/4$ ※12	
施設区分詳細	ごみ焼却炉 複数の地域計画に跨る場合は、 ・全体事業総事業費 → 複数地域計画の合計額 ・全体事業交付対象事業費A～C → 現地域計画のみの額 ※3	前年度まで N ※12	※10
処理能力	300 t / 日 ※3	今年度 O	※12 ※10
全体事業	※12 総事業費 ※4	合計 P = N + O ※12	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C ※4	進捗率 Q = P ÷ C ※12	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A ※4	過年度受入済額 R ※12	※10
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B ※4	単年度交付額 S = M × Q - R ※12	※16
当該年度事業	※12 総事業費 ※5	交付限度額 $T = A \times 1/3$ ※12	3,000,000
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)		前年度まで U ※12	1,800,000
本工事費	※13 ※6 4,320,000	今年度 V ※12	4,500,000
付帯工事費	※13 ※6	合計 W = U + V ※12	6,300,000
廃焼却施設解体費	※13 ※6	進捗率 X = W ÷ A ※12	70.0000%
用地費及び補償費	※13 ※6	過年度受入済額 Y ※12	600,000
調査費	※13 ※6	単年度交付額 Z = T × X - Y ※12	1,500,000
工事雑費	※13 ※6	交付限度額 $A_A = B \times 1/2$ ※12	3,500,000
その他	※13 ※6	前年度まで A_B ※12	700,000
工事費計 H	※13 4,320,000	今年度 A_C ※12	3,850,000
事務費 I	※13 ※7 30,000	合計 AD = A_B + A_C ※12	4,550,000
事業費 J = H + I	※13 4,350,000	進捗率 A_E = AD ÷ B ※12	65.0000%
控除額 K	※13 ※8	過年度受入済額 A_F ※12	350,000
交付対象事業費 L = J - K	※13 4,350,000	単年度交付額 A_G = A_A × A_E - A_F ※12	1,925,000
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	-※15 ①	単年度交付額（実績） A_H = S + Z + A_G ※12	※16 3,425,000
交付決定額に含まれない事業費について、交付対象事業費に含めないこと。	-※15 ②	年度間調整による増額調整額 A_H'	※11 0
事務費の	簡易チェック欄にコメントが表示される場合、要修正。 (記載事項の説明を参照)	交付金額 A_H + A_H' ※13	2,000,000
工期全体の工事費（工事雑費を除く）(A_V)	※12 ※7 20,000,000	※15 ③	
事務費率 (A_W)	※12 0.5 %	摘要	
事務費限度額 (A_X) = (A_V) × (A_W)	※12 100,000	複数の地域計画に跨る場合、 複数地域計画の合計額。	
直近下位の最高額 (A_Y)	※12 10,000	※14	
工期全体の事務費 (A_Z)	※12 ※7 70,000	単年度交付額に年度間調整額による増額調整額を加えた額が交付金額となり、原則、様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する(※自動計算)。ただし、複数の予算区分で実施する場合は、それぞれの予算区分ごとに按分した額を直接入力すること。	
<input checked="" type="checkbox"/>	複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック ※9 (現地域計画+次期地域計画 等)		
事務費の各年度配分	※7 ※9 (交付対象工事費内訳) 令和n-1年度 10,000 令和n年度 30,000 令和n+1年度 10,000 令和n+2年度 10,000 令和n+3年度 0 令和n+4年度 10,000 合計 70,000	現地域計画 15,940,000 次期地域計画 4,060,000 合計 20,000,000	
<input type="radio"/>			

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

#### 基本事項

- ・本様式については交付対象事業ごと、予算区分ごとに別々のものとして作成すること。
- ・交付対象事業が複数ある場合、交付対象事業ごとに本様式を別葉で作成すること。
- ・計算式を設定しているため、緑色セルのみに金額を入力すること。  
(原則、緑色セル以外は入力を行わないこと。「交付金額AH+AH'」について、複数の予算区分で実施するためには按分する、単年度交付額（実績）よりも交付決定額が少ない等の場合については、直接入力すること。)

※1

本省縦越予算等で交付決定された実績報告については、令和〇〇年度（令和××年度からの当初予算縦越分）というように縦越予算であることがわかるように記載すること。

※2

様式7-1「項目」欄（交付対象事業名）の記載と合致させること。

※3

現地域計画に基づく内容を記載すること。

ただし、処理能力の欄については、「施設整備に関する計画支援事業」、「災害廃棄物処理計画作成支援事業」及び「長期広域化・集約化計画策定支援事業」の場合は、「-」または空欄としてもよい。

※4

現地域計画と実績に基づく内容を記載すること。当該交付対象事業が複数の地域計画期間に跨る場合は、全体事業（総事業費）欄については複数の地域計画期間における当該事業の総事業費の合計を記載し、全体事業（交付対象事業費A～C）については現地域計画のみの総交付対象事業費を記載すること。なお、現地域計画に位置づけられていない事業費を含めないように注意すること。

※5

当該年度事業に係る総事業費の実績を記載すること。また、現地域計画に位置づけられていない事業に係る費用を含めないように注意すること。

※6

取扱要領別表1から別表5に基づいて算定、配分された交付対象経費を記載すること。

「施設整備に関する計画支援事業」、「災害廃棄物処理計画策定支援事業」及び「長期広域化・集約化計画策定支援事業」は基本的に調査費とすること。

※7

工期全体の工事費（工事雑費を除く）に取扱要領別表1で定める率を乗じて算出した額をその範囲内で各年度に分配するものとする。なお、事務費の各年度の配分額については左下の欄に記載すること。

※8

交付対象経費のうち、控除すべき金額（事業実施に伴う寄付金、施設解体による売却収入など）があれば記入すること。

※9

当該交付対象事業が次期地域計画期間に跨る場合は、チェックボックス欄にチェックを付し、左下の欄に「現地域計画及び次期地域計画等の交付対象工事費の内訳と合計」についてを記載すること。

※10

事業名に記載した交付対象事業のうち、1／4事業、1／3事業及び1／2事業の前年度までと今年度の交付対象事業費実績額及び過年度受入済額を記載すること。

※11

年度間調整（当該年度増額調整）を行う場合は、交付金額が当該年度の各交付対象事業費実績の合計以下となることを上限として増額調整分を記載することが可能。

※12

同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施した場合、進捗率の管理は一括して行っていると考えられることから、当該欄には、複数の予算区分ごとに事業費を按分するのではなく、すべて同一の記載とすること。

※13

交付要綱第5及び第6により算出した交付金額を記載すること。また、同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施する場合は、予算区分ごとに按分して記載すること。

※14

交付金の返還を行う場合、返還の理由等を記載すること。（P35 参照）

地方縦越を行い、その地方縦越事業を完了した場合は、摘要に内訳を記載すること。（P16、20、34 参照）

※15

各項目の簡易チェック機能欄のため、この欄が「-（ハイフン）」になった状態で提出すること。

①「-」でない場合は、地域計画期間全体の総事業費と交付対象事業費の差から求められる交付対象外事業費よりも、当該年度事業の総事業費と交付対象事業費の差から求められる交付対象外事業費の方が大きいことになるため、内容に誤りがないか確認すること。

②「-」でない場合は、当年度の各交付対象事業費実績の合計よりも、年度間調整額を含んだ当年度の交付金額の方が大きいことになるため、内容に誤りがないか確認すること。

③「-」でない場合は、全体事業の各交付対象事業費の合計よりも、「事務費の算出方法」の工期全体の工事費（工事雑費を除く）と工期全体の事務費の合計の方が大きいことになるため、内容に誤りがないか確認すること。（当該交付対象事業が次期地域計画期間に跨る場合は、チェックボックスにチェックを付すこと）

※16

交付金額がマイナスとなる場合、過年度受入済額の金額が正しく記載されていないか、年度間調整による減額調整がしきれていないものと考えられるため確認すること。

①-1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式 7-2（浄化槽設置整備事業）

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）（※1）

（単位：千円）

同一事業を複数の予算区分で実施する場合、 ※5 → 予算区分ごとの金額 ※8 → 各様式7-2で同一の金額		事業の内容	交付金の算出方法	
			交付限度額 (A/3) ※千円未満切捨	N 5,350
施設区分（事業名）	浄化槽設置整備事業	1／3 事業	前年度まで O (※5) 420	
全体事業（※8）	総事業費 (※2) 78,500		今年度 P (※5) 15,210	
全体事業（※8）	交付対象事業費 (1/3事業) A (※2) 16,050		合計 (O+P) Q 15,630	
全体事業（※8）	交付対象事業費 (1/2事業) B (※2) 62,450		進捗率 (Q/A) ※小数点以下第5位まで表示 R 97.38318%	
当該年度事業（※8）	総事業費 (※3) 27,700		過年度受入済額 S (※5) 140	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			単年度交付額 (N×R-S) ※千円未満切捨 T 5,070	
浄化槽設置（別紙内訳 1. 浄化槽設置の合計額） C	6,640	1／2 事業	交付限度額 (B/2) ※千円未満切捨 U 31,225	
宅内配管工事（別紙内訳 2. 宅内配管工事の合計額） D	4,500		前年度まで V (※5) 23,652	
撤去（別紙内訳 3. 撤去の合計額） E	900		今年度 W (※5) 12,490	
雨水貯留槽等再利用（別紙内訳 4. 雨水貯留槽等再利用の合計額） F	450		合計 (V+W) X 36,142	
既設浄化槽の改築（別紙内訳 5. 既設浄化槽の改築の合計額） G	210		進捗率 (X/B) ※小数点以下第5位まで表示 Y 57.87350%	
浄化槽災害復旧事業（別紙内訳 6. 浄化槽災害復旧事業） H	0		過年度受入済額 Z (※5) 11,826	
維持管理負担軽減事業（別紙内訳 7. 少人数高齢世帯の維持管理負担軽減事業の合計額） I			単年度交付額 (U×Y-Z) ※千円未満切捨 α 6,245	
浄化槽整備効率化事業（別紙内訳 8. 浄化槽整備効率化事業の合計額） I	15,000		単年度交付額 (T+α) ※計算上の交付金上限額 β 11,315	
小計（C～J の計） K	27,700		年度間調整による増額調整額 γ (※6) 0	
控除額 L	(※4) 0		交付金額 (β+γ) (※9) 11,315	
交付対象事業費（K-L） M	27,700		摘要 (※7)	単年度交付額に年度間調整額による増額調整額を加えた額が交付金額となり、原則、様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する(※自動計算)。
交付決定額に含まれない事業費については、交付対象事業費に含めないこと。				

※欄（行、列）の追加削除を行わないこと。

#### 基本事項

- ・本様式は、予算区分ごとに別葉とすること。
- ・交付対象事業が複数ある場合、交付対象事業ごとに本様式を別葉で作成すること。
- ・計算式を設定しているため、緑色セルのみに金額を入力すること。（緑色セル以外は入力を行わないこと。）
- ・「環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業」を実施する場合は、「様式7-2別紙内訳」内の「うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」の欄を入力し、「■環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備事業 事業報告」の欄が要綱の要件を満たすか（6割（60%）以上か）を確認すること。
- ・「防災拠点単独処理浄化槽集中転換事業」、「汚水処理施設概成に向けた浄化槽整備加速化事業」を実施する場合は、交付金事業実績報告書とあわせて室長通知に定める事業報告書を添付すること。

#### ※ 1

交付金名を様式7-1と合致させること。本省繰越予算等で交付決定された実績報告については、令和〇〇年度（令和××年度からの当初予算繰越分）というように繰越予算であることがわかるように記載すること。

#### <記載例>

令和7年度当初予算分：令和7年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

令和7年度補正予算分：令和7年度（補正予算分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

令和7年度（令和6年度からの当初予算繰越分）：令和7年度（令和6年度からの当初予算繰越分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

令和7年度（令和6年度からの補正予算繰越分）：令和7年度（令和6年度からの補正予算繰越分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

#### ※ 2

現地域計画に基づく内容を記載すること。

なお、現地域計画に位置づけられていない事業費を含めないように注意すること。

#### ※ 3

当該年度事業に係る総事業費の実績を記載すること。なお、当該年度までの総事業費が現地域計画の総事業費を越えることはできないため注意すること。また現地域計画に位置づけられていない事業費を含めないように注意すること。

#### ※ 4

交付対象経費のうち、控除すべき金額（事業実施に伴う補償等の収入）があれば記載すること。

#### ※ 5

事業名に記載した交付対象事業のうち、1/3事業と1/2事業の前年度までと今年度の交付対象事業費実績額及び過年度受入済額を記載すること。その際、交付対象事業費実績額であるP欄（1/3事業）とW欄（1/2事業）を合計した額は、M欄（当該年度の交付対象事業費の合計）の額と同額となるものであるため、誤りがないか確認すること。

#### ※ 6

年度間調整（当該年度増額調整）を行う場合は、单年度交付額（ $\beta$ ）を当該年度における変更された執行予定期事業費（交付対象事業費実績今年度（1/3事業（P）+1/2事業（W）））まで増額調整することが可能であり、当該増額調整する額をγに記載する。

#### ※ 7

交付金の返還を行う場合、返還の理由を記載すること。

#### ※ 8

同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施する場合、進捗率の管理は一括して行っていると考えられることから、当該欄には、複数の予算区分ごとに事業費を按分して記載するのではなく、すべて同一の記載とすること。

#### ※ 9

交付対象事業費Mを超える額の交付を受けることはできないため、確認すること。

また、交付金額がマイナスとなる場合、過年度受入済額の金額が正しく記載されていないか、年度間調整による減額調整がしきれていなものと考えられるため確認すること。

①-1 記載事項の説明(令和n年度に交付決定を受けて、令和n年度に完了した場合)  
様式7-2(浄化槽設置整備事業) 別紙内訳

1. 浄化槽設置

区分		通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
		基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数											
浄化槽	5人槽	332	332	20	390			558			652			6,640	
	6~7人槽	414			474			695			792			0	
	8~10人槽	548			660			916			1,112			0	
	11~15人槽	939			1,002			1,359			1,460			0	
	16~20人槽	939			1,002			1,857			1,958			0	
	21~25人槽	1,472			1,545			2,221			2,327			0	
	26~30人槽	1,472			1,545			2,710			2,847			0	
	31~40人槽	2,037			2,129			3,014			3,162			0	
	41~50人槽	2,037			2,129			3,824			3,995			0	
	51人槽~	2,326			2,429			3,876			4,048			0	
窒素又は廃棄物を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	360			408			588			664			0	
	6~7人槽	462			492			720			804			0	
	8~10人槽	585			684			936			1,132			0	
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426			1,526			0	
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192			2,318			0	
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760			2,904			0	
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208			3,366			0	
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728			3,904			0	
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294			4,486			0	
	51人槽~	2,850			2,979			4,750			4,965			0	
高密度窒素除去能力を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	474			504			728			768			0	
	6~7人槽	570			654			958			1,014			0	
	8~10人槽	723			774			1,156			1,256			0	
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426			1,526			0	
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192			2,318			0	
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760			2,904			0	
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208			3,366			0	
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728			3,904			0	
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294			4,486			0	
	51人槽~	2,850			2,979			4,750			4,965			0	
窒素及び廃棄物を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	528			558			758			800			0	
	6~7人槽	693			738			954			1,018			0	
	8~10人槽	963			1,029			1,288			1,383			0	
	11~15人槽	1,674			1,779			1,858			1,988			0	
	16~20人槽	1,674			1,779			2,858			3,020			0	
	21~25人槽	2,811			2,952			3,596			3,778			0	
	26~30人槽	2,811			2,952			4,180			4,384			0	
	31~40人槽	3,774			3,912			4,858			5,080			0	
	41~50人槽	3,774			3,912			5,598			5,844			0	
	51人槽~	4,201			4,386			7,001			7,310			0	
BOD除去能力に関する高度処理型の浄化槽	5人槽	489			516			722			762			0	
	6~7人槽	654			696			918			978			0	
	8~10人槽	903			963			1,232			1,322			0	
	11~15人槽	1,551			1,650			1,766			1,888			0	
	16~20人槽	1,551			1,650			2,716			2,870			0	
	21~25人槽	2,607			2,736			3,418			3,592			0	
	26~30人槽	2,607			2,736			3,972			4,166			0	
	31~40人槽	3,501			3,660			4,616			4,828			0	
	41~50人槽	3,501			3,660			5,318			5,550			0	
	51人槽~	3,906			4,080			6,510			6,800			0	
合計				20	0		0			0			6,640	0	

※1 基準額を超えない実績額を記載すること。

※2 計算式を設定しているため、緑色セルのみに実績額(1基当たり)、基数を入力すること。(緑色セル以外は入力を行わないこと。)

ただし、事業主体により、同じ人槽でも複数の実績額(1基当たり)の額を設けている場合(例:5人槽の新築は166千円、転換は332千円としている場合など)は下記の通り対応すること。

・実績額(1基あたり)は記載不要

・「基数」は直接、実績する基数を記載

・「小計」は直接、実績額の小計を記載

・上記の基数及び小計の内訳(1基あたりの実績額、基数、小計、それらの合計を記載したもの)を別紙(任意の様式)で次ページへ添付

※3 セル(行及び列)の追加・削除を行わないこと。

※4 「1. 浄化槽設置」「うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」欄については、環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備事業を実施する場合、「単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」に係る事業費を手入力すること。

※5 「2. 宅内配管工事」「3. 撤去」「4. 雨水貯留槽等再利用」については、すべて単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費となります。

■環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備事業 事業計画

交付対象事業費(a) (単位:千円)

本事業に係る交付対象事業費	(単位:千円)
	(※6)

「1. 浄化槽設置」「2. 宅内配管工事」「3. 撤去」「4. 雨水貯留槽等再利用」の合計額を記載すること(自動計算)。

交付対象事業費のうち、単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(b)

(単位:千円)
(※6)

交付対象事業費のうち、単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費割合(b/a)


※小数点以下切り捨て。

</div

①-1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式 7-2 (公共浄化槽等整備推進事業)

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表 (実績報告)

(単位：千円)

事業の内容		交付金の算出方法			
施設区分 (事業名)	公共浄化槽等整備推進事業	1 3 事業	交付限度額 (A / 3) ※千円未満切捨 O	6,459	
全体事業 (※9)	総事業費 (※2) 30,867		前年度まで P (※6) 0		
全体事業 (※9)	交付対象事業費 (1 / 3 事業) A (※2) 19,377		今年度 Q (※6) 15,609		
全体事業 (※9)	交付対象事業費 (1 / 2 事業) B (※2) 11,490		合計 (P + Q) R 15,609		
当該年度事業 (※9)	総事業費 (※3) 21,411		進捗率 (R / A) ※小数点以下第 5 位まで表示 S 80.55427%		
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			過年度受入済額 T (※6) 0		
浄化槽設置 (別紙内訳 1. 浄化槽設置の合計額) C	1,674		単年度交付額 (O × S - T) ※千円未満切捨 U 5,203		
共同浄化槽設置 (別紙内訳 2. 共同浄化槽設置の合計額) D	3,348		交付限度額 (B / 2) ※千円未満切捨 V 5,745		
宅内配管工事 (別紙内訳 3. 宅内配管工事の合計額) E	600		前年度まで W (※6) 3,291		
撤去 (別紙内訳 4. 撤去の合計額) F	90		今年度 X (※6) 5,802		
雨水貯留槽等再利用 (別紙内訳 5. 雨水貯留槽等再利用の合計額) G	90		合計 (W + X) Y 9,093		
小計 (C ~ G の計) H	5,802		進捗率 (Y / B) ※小数点以下第 5 位まで表示 Z 79.13838%		
事務費 (小計 H の 3.5% 以内) I (※4)	0	1 2 事業	過年度受入済額 α (※6) 1,645		
既設浄化槽の改築 (別紙内訳 6. 既設浄化槽の改築の合計額) J	609		単年度交付額 (V × Z - α) ※千円未満切捨 β 2,901		
維持管理負担軽減事業 (別紙内訳 7. 少人数高齢世帯の維持管理負担軽減事業の合計額) K	0		単年度交付額 (U + β) ※計算上の交付金上限額 γ 8,104		
浄化槽整備効率化事業 (別紙内訳 8. 浄化槽整備効率化事業の合計額) L	15,000		年度間調整による増額調整額 δ (※7) 0		
控除額 M (※5)	0		交付金額 (γ + δ) (※10) 8,104		
交付対象事業費 (H + I + J + K + L - M) N	21,411	摘要		単年度交付額に年度間調整額 による増額調整額を加えた額 が交付金額となり、原則、様式 7-1 の交付金額(年度間調整 による増額調整後の交付金額) (C) と一致する(※自動計算)。	
交付決定額に含まれない事業費について は、交付対象事業費に含めないこと。		(※8)			

※欄 (行、列) の追加削除を行わないこと。

#### 基本事項

- ・本様式は、予算区分ごとに別葉とすること。
- ・交付対象事業が複数ある場合、交付対象事業ごとに本様式を別葉で作成すること。
- ・計算式を設定しているため、緑色セルのみに金額を入力すること。（緑色セル以外は入力を行わないこと。）
- ・「環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備推進事業」を実施した場合は、「様式7-2別紙内訳」内の「うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」の欄とを入力し、「■環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備事業 事業報告」の欄が要綱の要件を満たすか（「6割（60%）以上か」または「事業計画額のうち3割（30%）以上であり、併せて地域防災計画に位置付けられた施設に浄化槽を整備する場合か」）を確認すること。
- ・「公的の施設・防災拠点単独処理浄化槽集中転換事業」、「汚水処理施設概成に向けた浄化槽整備加速化事業」を実施する場合は、交付金事業実績報告書とあわせて室長通知に定める事業報告書を添付すること。

#### ※1

交付金名を様式7-1と合致させること。本省繰越予算等で交付決定された実績報告については、令和〇〇年度（令和××年度からの当初予算繰越分）というように繰越予算であることがわかるように記載すること。

#### ＜記載例＞

令和7年度当初予算分：令和7年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）  
令和7年度補正予算分：令和7年度（補正予算分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）  
令和7年度（令和6年度からの当初予算繰越分）：令和7年度（令和6年度からの当初予算繰越分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）  
令和7年度（令和6年度からの補正予算繰越分）：令和7年度（令和6年度からの補正予算繰越分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

#### ※2

現地域計画に基づく内容を記載すること。

なお、現地域計画に位置づけられていない事業費を含めないように注意すること。

#### ※3

当該年度事業に係る総事業費の実績を記載すること。なお、当該年度までの総事業費が現地域計画の総事業費を越えることはできないため注意すること。また現地域計画に位置づけられていない事業費を含めないように注意すること。

#### ※4

小計（H）に取扱要領別表4で定める率（3.5%以内）を乗じて算出した額の範囲内で対象となる金額を記載すること。

#### ※5

交付対象経費のうち、控除すべき金額（事業実施に伴う補償等の収入）があれば記載すること。

#### ※6

事業名に記載した交付対象事業のうち、1/3事業と1/2事業の前年度までと今年度の交付対象事業費実績額及び過年度受入済額を記載すること。その際、交付対象事業費実績額であるQ欄（1/3事業）とX欄（1/2事業）を合計した額は、N欄（当該年度の交付対象事業費の合計）の額と同額となるものであるため、誤りがないか確認すること。

#### ※7

年度間調整（当該年度増額調整）を行う場合は、单年度交付額（γ）を当該年度における変更された執行予定事業費（交付対象事業費実績今年度（1/3事業（Q）+1/2事業（X）））まで増額調整することが可能であり、当該増額調整する額をδに記載する。

#### ※8

交付金の返還を行う場合、返還の理由を記載すること。

#### ※9

同一の交付対象事業を複数の予算区分で実施する場合、進捗率の管理は一括して行っていると考えられることから、当該欄には、複数の予算区分ごとに事業費を按分して記載するのではなく、すべて同一の記載とすること。

#### ※10

交付対象事業費Nを超える額の交付を受けることはできないため、確認すること。

また、交付金額がマイナスとなる場合、過年度受入済額の金額が正しく記載されていないか、年度間調整による減額調整がしきれていないものと考えられるため確認すること。

①-1 記載事項の説明(令和n年度に交付決定を受けて、令和n年度に完了した場合)

様式7-2(公共浄化槽等整備推進事業) 別紙内訳

#### 1. 浄化槽設置

区分		通常		豪雪地帯又は特別豪雪地帯		小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
		基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	基準額 (1基当たり)		
浄化槽	5人槽	837	837	2	978	1,674	
	6~7人槽	1,043			1,188	0	
	8~10人槽	1,375			1,668	0	
	11~15人槽	2,039			2,191	0	
	16~20人槽	2,786			2,937	0	
	21~25人槽	3,322			3,491	0	
	26~30人槽	4,086			4,271	0	
	31~40人槽	4,521			4,743	0	
	41~50人槽	5,737			5,993	0	
	51人槽~					0	
窒素又は焼除去除能力を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	882			996	0	
	6~7人槽	1,080			1,206	0	
	8~10人槽	1,404			1,698	0	
	11~15人槽	2,139			2,289	0	
	16~20人槽	3,288			3,477	0	
	21~25人槽	4,140			4,356	0	
	26~30人槽	4,812			5,049	0	
	31~40人槽	5,592			5,856	0	
	41~50人槽	6,441			6,729	0	
	51人槽~					0	
高度窒素除去能力を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	1,092			1,152	0	
	6~7人槽	1,437			1,521	0	
	8~10人槽	1,734			1,884	0	
	11~15人槽	2,139			2,289	0	
	16~20人槽	3,288			3,477	0	
	21~25人槽	4,140			4,356	0	
	26~30人槽	4,812			5,049	0	
	31~40人槽	5,592			5,856	0	
	41~50人槽	6,441			6,729	0	
	51人槽~					0	
窒素及び焼除去除能力を有する高度処理型の浄化槽	5人槽	1,137			1,200	0	
	6~7人槽	1,431			1,527	0	
	8~10人槽	1,932			2,075	0	
	11~15人槽	2,787			2,982	0	
	16~20人槽	4,287			4,530	0	
	21~25人槽	5,394			5,867	0	
	26~30人槽	6,270			6,576	0	
	31~40人槽	7,287			7,620	0	
	41~50人槽	8,397			8,766	0	
	51人槽~					0	
BOD除去能力に關係する高度処理型の浄化槽	5人槽	1,083			1,143	0	
	6~7人槽	1,377			1,467	0	
	8~10人槽	1,848			1,983	0	
	11~15人槽	2,649			2,832	0	
	16~20人槽	4,074			4,305	0	
	21~25人槽	5,127			5,388	0	
	26~30人槽	5,958			6,249	0	
	31~40人槽	6,924			7,242	0	
	41~50人槽	7,977			8,325	0	
	51人槽~					0	
合計				2	0	1,674	0

#### 2. 共同浄化槽設置

	浄化槽の規模	接続戸数	総事業費	実績額 (1基当たり)	基数	小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
浄化槽	14人槽	4	3,346	3,348	1	3,346	
	18人槽	5	4,185		0		
	21人槽	6	5,022		0		
	25人槽	7	5,859		0		
	30人槽	8	6,696		0		
	40人槽	11	9,207		0		
	45人槽	12	10,044		0		
	50人槽	14	11,718		0		
	60人槽	17	14,229		0		
	70人槽	20	16,740		0		
	80人槽	22	18,414		0		
	90人槽	25	20,925		0		
	100人槽	28	23,436		0		
窒素又は焼除去除能力を有する高度処理型の浄化槽	14人槽	4	4,080		0		
	18人槽	5	5,100		0		
	21人槽	6	6,120		0		
	25人槽	7	7,140		0		
	30人槽	8	8,160		0		
	40人槽	11	11,220		0		
	45人槽	12	12,240		0		
	50人槽	14	14,280		0		
	51人槽以上					0	
窒素及び焼除去除能力を有する高度処理型の浄化槽	14人槽	4	4,548		0		
	18人槽	5	5,685		0		
	21人槽	6	6,822		0		
	25人槽	7	7,959		0		
	30人槽	8	9,096		0		
	40人槽	11	12,507		0		
	45人槽	12	13,644		0		
	50人槽	14	15,918		0		
	51人槽以上					0	
BOD除去能力に關係する高度処理型の浄化槽	14人槽	4	4,332		0		
	18人槽	5	5,415		0		
	21人槽	6	6,498		0		
	25人槽	7	7,581		0		
	30人槽	8	8,664		0		
	40人槽	11	11,913		0		
	45人槽	12	12,996		0		
	50人槽	14	15,162		0		
	51人槽以上					0	
合計				1	3,348	0	

※1 基準額を超えない実績額を記載すること。

※2 計算式を設定しているため、緑色セルのみに実績額(1基当たり)、基数を入力すること。(緑色セル以外は入力を行わないこと。)

ただし、事業主体により、同じ人槽でも複数の実績額(1基当たり)の額を設けている場合(例:5人槽の新築は166千円、転換は332千円としている場合など)は下記の通り対応すること。

「実績額(1基あたり)」は記載不要。

「基数」は直接、実績の基数を記載。

「小計」は直接、実績額の小計を記載。

「上記の基数及び小計の内訳(1基あたりの実績額、基数、小計、それらの合計を記載したもの)を別紙(任意の様式)で次ページへ添付(行及び列)の追加削除を行わないこと。

※3 「1. 浄化槽設置」の「うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」欄については、「環境配慮・防災まちづくり浄化槽整備事業を実施する場合、「単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費」手入力すること。

※4 「2. 宅内配管工事」「3. 撤去」「4. 雨水貯留槽等再利用」については、すべて単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費となります。

#### 3. 宅内配管工事

	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	小計
5人槽	300	300	2	600
6~7人槽	300			0
8~10人槽	300			0
11~15人槽	300			0
16~20人槽	300			0
21~25人槽	300			0
26~30人槽	300			0
31~40人槽	300			0
41~50人槽	300			0
51人槽~				0
合計			2	

①-1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）  
※Rn 年度分と R(n-1) → Rn の地方縁越分で事業を実施した場合

様式 7-2

※1

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

（単位：千円）

事業の内容			交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	施設整備に関する計画支援事業	※2	1／4 事業	交付限度額 $M = C \times 1/4$ ※12	
施設区分詳細	マテリアルリサイクル推進施設	※3		前年度まで N ※12 ※10	
処理能力	—	※3		今年度 O ※12 ※10	
全体事業	※12 総事業費	※4 60,000		合計 P = N + O ※12	
全体事業	※12 交付対象事業費 (1/4 事業) C	※4		進捗率 Q = P ÷ C ※12	
全体事業	※12 交付対象事業費 (1/3 事業) A	※4 60,000		過年度受入済額 R ※12 ※10	
全体事業	※12 交付対象事業費 (1/2 事業) B	※4		単年度交付額 S = M × Q - R ※12 ※16	
当該年度事業	※12 総事業費	※5 45,000		交付限度額 T = A × 1/3 ※12 20,000	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)				前年度まで U ※12 ※10 15,000	
本工事費	※13	※6		今年度 V ※12 ※10 45,000	
付帯工事費	※13	※6		合計 W = U + V ※12 60,000	
廃焼却施設解体費	※13	※6		進捗率 X = W ÷ A ※12 100.0000%	
用地費及び補償費	※13	※6		過年度受入済額 Y ※12 ※10 5,000	
調査費	※13	※6 45,000		単年度交付額 Z = T × X - Y ※12 ※16 15,000	
工事雑費	※13	※6		交付限度額 AA = B × 1/2 ※12	
その他	※13	※6		前年度まで AB ※12 ※10	
工事費計 H	※13	45,000		今年度 AC ※12 ※10	
事務費 I	※13	※7		合計 AD = AB + AC ※12	
事業費 J = H + I	※13	45,000		進捗率 AE = AD ÷ B ※12	
控除額 K	※13	※8		過年度受入済額 AF ※12 ※10	
交付対象事業費 L = J - K	※13	45,000		単年度交付額 AG = AA × AE - AF ※12 ※16	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—	-※15 ①	1／2 事業	単年度交付額（実績） AH = S + Z + AG ※12 15,000	
—	—	※15 ②		年度間調整による増額調整額 AH' ※11	
事務費の算出方法				交付金額 AH + AH' ※13 ※16 15,000	
工期全体の工事費（工事雑費を除く）(AV)	※12	※7	※14 R(n-1)→R(n) 地方縁越分に係る内訳 ・1/3 事業 前年度まで 15,000千円 <内訳> R(n-1) 実績 0千円 R(n) 実績 15,000千円 上記以外の過年度分実績 0千円 ・過年度受入済額 5,000千円 <内訳> R(n-1) 実績 0千円 R(n) 実績 5,000千円 上記以外の過年度分実績 0千円	— ※15 ③	
事務費率 (AW)	※12			摘要	
事務費限度額 (AX) = (AV) × (AW)	※12				
直近下位の最高額 (AY)	※12				
工期全体の事務費 (AZ)	※12	※7			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック ※9 (現地計画+次期地計画 等)					
事務費の各年 度配 分	※7 ※9				
<input type="radio"/>					

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

①-1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式 7-2

令和 n 年度（令和 n-1 年度からの当初予算繰越分）循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）※1

同一事業を複数の予算区分で実施する場合、 ※12 → 各様式7-2で同一 ※13 → 予算区分ごとに按分		当初予算以外は（予算区分）の記載をする。		(単位：千円)		
容		交付金の算出方法				
施設区分（事業名）	エネルギー回収型廃棄物処理施設	※2	1／4 事業	交付限度額 $M = C \times 1/4$	※12	
施設区分詳細	ごみ焼却施設	※3		前年度まで N	※10	
処理能力	300 t / 日	※3		今年度 O	※10	
全体事業	※12	総事業費		合計 P = N + O	※12	
全体事業	※12	交付対象事業費 (1/4 事業) C		進捗率 Q = P ÷ C	※12	
全体事業	※12	交付対象事業費 (1/3 事業) A		過年度受入済額 R	※12 ※10	
全体事業	※12	交付対象事業費 (1/2 事業) B		単年度交付額 S = M × Q - R	※12 ※16	
当該年度事業	※12	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1/3$	3,000,000	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)				前年度まで U	※10 1,800,000	
本工事費	※13	※6		今年度 V	※10 4,500,000	
付帯工事費	※13	※6		合計 W = U + V	6,300,000	
廃焼却施設解体費	※13	※6	1／3 事業	進捗率 $X = W \div A$	70.00000%	
用地費及び補償費	※13	※6		過年度受入済額 Y	※12 ※10 600,000	
調査費	※13	※6		単年度交付額 Z = T × X - Y	※12 ※16 1,500,000	
工事雑費	※13	※6		交付限度額 $A_A = B \times 1/2$	3,500,000	
その他	※13	※6		前年度まで A_B	※10 700,000	
工事費計 H	※13	4,000,000		今年度 A_C	※10 3,850,000	
事務費 I	※13	※7		合計 A_D = A_B + A_C	4,550,000	
事業費 J = H + I	※13	4,000,000		進捗率 $A_E = A_D \div B$	65.00000%	
控除額 K	※13	※8		過年度受入済額 A_F	※12 ※10 350,000	
交付対象事業費 L = J - K	※13	4,000,000		単年度交付額 A_G = A_A × A_E - A_F	※12 ※16 1,925,000	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較		-※15 ①	1／2 事業	単年度交付額（実績） A_H = S + Z + A_G	※12 3,425,000	
		-※15 ②		年度間調整による増額調整額 A_H'	※11 0	
事務費の算出方法				交付金額 A_H + A_H'	※13 ※16 1,425,000	
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A_V)	※12	※7 20,000,000		-	※15 ③	
事務費率 (A_W)	※12	0.5 %		摘要		
事務費限度額 (A_X) = (A_V) × (A_W)	※12	100,000		※14		
直近下位の最高額 (A_Y)	※12	10,000				
工期全体の事務費 (A_Z)	※12	※7 70,000				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック ※9 (現地域計画+次期地域計画 等)						
事務費の各年度配分 (A_W) × (A_Y)	※7	※9 (交付対象工事費内訳) 令和n-1年度 10,000 令和n年度 30,000 令和n+1年度 10,000 令和n+2年度 10,000 令和n+3年度 0 令和n+4年度 10,000 合計 70,000				
<input type="radio"/>						

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

①－1 記載事項の説明（令和 n 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式7－3

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業費財源精算表 ※1

(単位:千円)

区分		金額	
国 庫 交 付 金	※2	交付金額の合計	3,459,418
地 方 負 担 金	一 般 歳 入		4,550,889
	地 方 債		11,049,111
	受 益 者 負 担 金		
	都 道 府 縿 補 助 金	その他財源の内訳	24,693
	市 町 村 分 担 金		
	そ の 他 (企業版ふるさと納税)	※3	10,000
	計	その他財源の合計	15,634,693
総 事 業 費	※4	交付対象内・外を含む 当該年度事業費の合計	19,094,111

(備考)

1. 総事業費とは、当該年度の事業費総額をいう。
2. その他に計上したものについては、内容を括弧内に記載すること。
3. 地方負担金が一般歳入・地方債のみの場合は、本表の提出は必要ない。
4. 予算財源ごとではなく、本表を1つにまとめて提出して構わない。

※1

交付金名については様式7－1と合致させること。

※2

様式7－1の各予算区分ごとの交付金額を合計した額と合致させること。

※3

備考2に記載されているように、その他に計上したものについては、その他の下部の括弧内に内容を記載すること。

※4

各様式7－2「当該年度事業総事業費」を合計した額と合致させること。

①-2 記載事項の説明(令和 n-1 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合)

様式第7 交付金事業実績報告書

様式 7-1

識別番号  
文書番号  
令和〇年〇月〇日

知事殿

申請者 △△市長 ○○○○

令和 n-1 年度循環型社会形成推進交付金事業実績報告書

交付決定年度(当初予算以外は予算区分)の交付金名とする。

令和 n-1 年度において国庫交付金の交付を受けた標記事業を

※事業実施年度とリンクしないため注意。

条の規定により、関係書類を添えて報告します。

1 事業主体名 :	△△市
2 循環型社会形成推進地域計画承認通知年月日 :	令和×年×月×日
3 循環型社会形成推進地域計画期間 :	令和×年度～×年度
4 実績報告額表(※各財源別の金額を本表に全て記載すること)	(単位:千円)

項目	事業年度	申請額			実績額			調整額(C-B)	事業終了までの受入可能額	差引額(A-C)	備考	
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額(A)	交付対象事業費	単年度交付額(B)	交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)					
令和 n 年度当初予算分	(地域計画期間内の事業全体)	16,109,367	6,548,779									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(当該年度分)	2,527,363	963,611	963,611	2,527,363	963,611	963,611	0	0	0	
		(合計)	2,527,363	963,611	963,611	2,527,363	963,611	963,611	0	5,585,168	0	
エネルギー回収型廃棄物処理施設	R○～R○(R○～R○)	16,000,000	6,500,000									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	2,500,000	950,000	950,000	2,500,000	950,000	950,000	0	0		
		(合計)	2,500,000	950,000	950,000	2,500,000	950,000	950,000	0	5,550,000		
浄化槽設置整備事業	R○～R○	78,500	36,575									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	24,072	11,966	11,966	24,072	11,966	11,966	0	0		
		(合計)	24,072	11,966	11,966	24,072	11,966	11,966	0	24,609		
公共浄化槽等整備推進事業	R○～R○	30,867	12,204									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	3,291	1,645	1,645	3,291	1,645	1,645	0	0		
		(合計)	3,291	1,645	1,645	3,291	1,645	1,645	0	10,559		
施設整備に関する計画支援事業(マテリアルリサイクル推進施設)	R○～R○	60,000	20,000									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	過年度分5,000千円は、R(n-1)→Rnの地方繰越分	
		(当該年度分)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	0	0		
		(合計)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	0	15,000		
<想定状況> ※実際の報告書提出の際は、枠囲い等の加工は不要。		0	0					0	0	0		
<p style="color: red;">赤枠事業&gt;&gt;令和6(n-1)年度交付決定分を令和7(n)年度に繰越し、令和7年度に実施した完了精算&gt;&gt;令和8年3月完了、4月精算</p> <p style="color: red;">※①-1 (P4 ~ P18) と同時に完了し、報告する想定。</p> <p>ほか事業&gt;&gt;令和6年度交付決定分で、令和6年度に実施した完了精算&gt;&gt;令和7年3月完了、4月精算(済)</p> <p>※令和5年度に実績報告・額の確定済み</p>												
<p>&lt;提出書類&gt;</p> <p>赤枠事業に係る 令和6年度の交付金事業実績報告書の再確定(様式7) ··· P19 ~ P20 参照</p> <p>ほか事業に係る 様式7-2も再提出する(本マニュアルでは省略する。)</p>												
	(地域計画期間内の事業全体)	0	0									
		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(合計)	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(地域計画期間内の事業全体)	0	0									
		(過年度分)							0			
		(当該年度分)							0			
		(合計)	0	0	0	0	0	0	0			
	(地域計画期間内の事業全体)	0	0									
		(過年度分)							0			
		(当該年度分)							0			
		(合計)	0	0	0	0	0	0	0			

(備考) 本様式に様式7-2及び様式7-3をあわせたものが報告書である。

本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先(電話番号・Eメールアドレス)

①-2 記載事項の説明（令和 n-1 年度に交付決定を受けて、令和 n 年度に完了した場合）

様式 7-2

令和 n-1 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

事業の内容		再確定する交付金の交付決定年度(当初予算以外は予算区分)の交付金名とする。 ※事業実施する年度とは異なるため注意すること。		
施設区分（事業名）	施設整備に関する計画支援事業	1 ／ 4 事 業	交付限度額 $M = C \times 1 / 4$	
施設区分詳細	マテリアルリサイクル推進施設		前年度まで N	
処理能力	—		今年度 O	
全体事業	総事業費		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1 / 3$ 20,000	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			前年度まで U 0	
本工事費			今年度 V 15,000	
付帯工事費		1 ／ 3 事 業	合計 V 15,000	
廃焼却施設解体費	地方縁越分予算に係る実績 を基に緑セルを記載する。		交付決定年度の実績報告とし て提出するため、「今年度」に 過年度実績と当該年度実績の の合計額を記載する 25.0000%	
用地費及び補償費			過年度受入済額 Y	
調査費	15,000		単年度交付額 $Z = T \times X - Y$ 5,000	
工事雑費			交付限度額 $AA = B \times 1 / 2$	
その他		1 ／ 2 事 業	前年度まで AB	
工事費計 H	15,000		今年度 AC	
事務費 I			合計 $AD = AB + AC$	
事業費 J = H + I	15,000		進捗率 $AE = AD \div B$	
控除額 K			過年度受入済額 AF	
交付対象事業費 L = J - K	15,000	1 ／ 2 事 業	単年度交付額 $AG = AA \times AE - AF$	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		単年度交付額 (実績) $AH = S + Z + AG$ 5,000	
—			年度間調整による増額調整額 $AH'$	
事務費の算出方法			交付金額 $AH + AH'$ 5,000	
工期全体の工事費 (工事雑費を除く) (AV)			— ※15 ③	
事務費率 (AW)		摘要		
事務費限度額 (AX) = (AV) × (AW)		(n-1) 年度に地方縁越し、n 年度に地 方縁越分で事業を実施した場合、 (n-1) 年度の実績報告では、地方縁越 分が「今年度」と「交付金額」に含まれる		
直近下位の最高額 (AY)				
工期全体の事務費 (AZ)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地域計画 + 次期地域計画 等)				
事務費の各年 度配 分		R(n-1) → R(n) 地方縁越分に係る内訳 ・ 1/3 事業 交付対象事業費実績 今年度 交付決定に係る交付対象事業費 15,000 千円 <内訳> R(n-1) 実績 0 千円 R(n) 実績 15,000 千円		
<input type="radio"/>		交付金額 交付決定に係る交付金額 5,000 千円 <内訳> R(n-1) 実績 0 千円 R(n) 実績 5,000 千円		

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

②～⑤個別記載例

様式第7 交付金事業実績報告書（記載例）

様式7－1

(単位：千円)

項目	事業年度	申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了まで の受入可能額	差引額 (A-C)	備考	
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による 増額調整後の 交付金額) (C)	交付金受入済額					
②年度間調整の記載例 ※増額調整年度 (調整1年目)	(過年度分)	25,400	12,630	12,630	25,400	12,630	12,630	12,630	0	0	0		
		46,032	17,315	17,315	42,036	15,983	17,315	0	1,332	0	0		
		(合計)	71,432	29,945	67,436	28,613	29,945	12,630	1,332	0	0		
マテリアルリサイクル推進施設	RO～RC	(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	18,000	6,000	15,000	5,000	6,000	0	1,000	0	0	年度間調整による増額調整	
		(合計)	18,000	6,000	15,000	5,000	6,000	0	1,000	0	0		
浄化槽設置整備事業	RO～RC	(過年度分)	25,400	12,630	25,400	12,630	12,630	12,630	0	0	0		
		(当該年度分)	28,032	11,315	27,036	10,983	11,315	0	332	0	0	年度間調整による増額調整	
		(合計)	53,432	23,945	52,436	23,613	23,945	12,630	332	0	0		
年度間調整のポイント													
交付決定後に事業進捗の遅れがあった場合に、次年度以降に調整を行う。													
年度間調整（増額調整）した場合は、次年度以降に減額調整が必要であるため、前年度までの実績報告書を参照し、適切に調整すること。													
交付対象事業費（実績額）の範囲（27,036千円）から交付対象事業費（申請額）の範囲（11,315千円）の低い方まで増額調整が可能。													
単年度交付額(B)を超える受け入れにならため調査額が発生。調査額は翌年度申請時に減額調整を行う。													
年度間調整を行う旨を記載する。													

(単位：千円)

項目	事業年度	申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了まで の受入可能額	差引額 (A-C)	備考	
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による 増額調整後の 交付金額) (C)	交付金受入済額					
②年度間調整の記載例 ※前年の増額分を減額する (調整2年目)	(過年度分)	71,432	29,945	29,945	67,436	28,613	29,945	29,945	1,332	0	0		
		31,364	11,315	11,315	31,364	12,647	11,315	0	-1,332	0	0		
		(合計)	102,796	41,260	98,800	41,260	29,945	0	0	0	0		
マテリアルリサイクル推進施設	RO～RC	(過年度分)	18,000	6,000	15,000	5,000	6,000	6,000	1,000	△ 1,000	0		
		(当該年度分)	18,000	5,000	18,000	6,000	5,000	0	0	0	0	減額調整のため、様式7-2の 年度間調整による増額調整額とは一致しない。	
		(合計)	36,000	11,000	33,000	11,000	11,000	6,000	0	0	0		
浄化槽設置整備事業	RO～RC	(過年度分)	53,432	23,945	52,436	23,613	23,945	23,945	332	0	0		
		(当該年度分)	13,364	6,315	13,364	6,647	6,315	0	△ 332	0	0	前年度増額調整分を減じて 交付額を受け入れるため、 調整額は0となる。	
		(合計)	66,796	30,260	65,800	30,260	30,260	23,945	0	0	0		
申請額の過年度分は各種調整を行った場合も過年度の申請額の合計額を記載する。													
交付申請時に前年度増額調整分を含めた交付対象事業費の実績があがっていること。													
交付対象事業費に交付率をかけて計算する。 <例> マテリアルリサイクル推進施設 $18,000 \times 1/3 = 6,000$ 浄化槽設置整備事業 $210 \times 1/3 = 70$ $13,154 \times 1/2 = 6,577$ 合計 6,647													
単年度交付額(B)から前年度増額調整分を減じた額か交付決定額(申請額)の範囲までの額で今年度受け入れることになる。													

(単位：千円)

項目	事業年度	申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了まで の受入可能額	差引額 (A-C)	備考	
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による 増額調整後の 交付金額) (C)	交付金受入済額					
③事業間調整の記載例 ※調整年度	(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		7,800	2,600	2,600	7,800	2,600	2,600	0	0	0	0		
		(合計)	7,800	2,600	7,800	2,600	2,600	0	0	0	0		
マテリアルリサイクル推進施設 ※調整元(進歩遅れ)	RO～RC	(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	6,000	2,000	3,000	1,000	1,000	0	0	0	0		
		(合計)	6,000	2,000	3,000	1,000	1,000	0	0	0	0	施設整備に関する計画支援事業へ1,000事業間調整	
施設整備に関する計画支援事業 ※調整先(進歩進んだ)	RO～RC	(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		(当該年度分)	1,800	600	4,800	1,600	1,600	0	0	0	0	マテリアルリサイクル推進施設事業から1,000事業間調整。	
		(合計)	1,800	600	4,800	1,600	1,600	0	0	0	0		
事業間調整のポイント													
交付決定後に進歩の遅れがあった場合に、別の事業と申請時の交付対象事業費と実績額の交付対象事業費の差額を調整を行う。													
調整を行う事業の合計の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)は申請時の交付金額の合計とは則り変わらない。													
調査先は増額調整分に必要な交付対象事業費の実績(出来高)があること。													
単年度交付額(B)は交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)にかかる。													
※事業間調整だけでは調整額は発生しない。													
調査先(調査元)及び調査金額を記載すること。													

(単位：千円)

項目	事業年度	申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了まで の受入可能額	差引額 (A-C)	備考	
		交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による 増額調整後の 交付金額) (C)	交付金受入済額					
③事業間調整の記載例 ※調整した翌年度	(過年度分)	7,800	2,600	2,600	7,800	2,600	2,600	0	0	0	0		
		9,000	3,000	3,000	9,000	3,000	3,000	0	0	0	0		
		(合計)	16,800	5,600	16,800	5,600	5,600	0	0	0	0		
マテリアルリサイクル推進施設	RO～RC	(過年度分)	6,000	2,000	3,000	1,000	1,000	0	0	0	0		
		(当該年度分)	6,000	2,000	6,000	2,000	2,000	0	0	0	0		
		(合計)	12,000	4,000	9,000	3,000	3,000	0	0	0	0		
施設整備に関する計画支援事業	RO～RC	(過年度分)	1,800	600	4,800	1,600	1,600	0	0	0	0		
		(当該年度分)	3,000	1,000	3,000	1,000	1,000	0	0	0	0		
		(合計)	4,800	1,600	7,800	2,600	2,600	0	0	0	0		
申請額の過年度分は各種調整を行った場合も過年度の申請額の合計額を記載する。													
調査分は反映する必要はなく、通常どおりに記載する。													

②～⑤個別記載例

様式第7 交付金事業実績報告書（記載例）

様式7－1

(単位：千円)

項目	事業年度		申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了までの受入可能額	差引額 (A-C)	備考		
			交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による増額調整後の交付金額) (C)	交付金受入済額						
④地方縦越の記載例 ※縦越をする年度			(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	差引額が発生する。		
			(当該年度分)	15,000	5,000	5,000	600	200	200	0	0	4,800			
			(合計)	15,000	5,000	5,000	600	200	200	0	0	4,800			
(内訳)	施設整備に関する計画支援事業 RO～RC		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			(当該年度分)	15,000	5,000	5,000	600	200	200	0	0	4,800	4,800千円はR4～R5の地方縦越		
			(合計)	15,000	5,000	5,000	600	200	200	0	0	4,800			
<b>地方縦越のポイント</b> 交付決定を受けたが、やむを得ない事情により当年度中に事業を完了できない場合に、都道府県の財務局と調整の上、次年度に繰り越しを行なう。 地方縦越をする場合は、当年度中に複数の事業があつた場合であつても、縦越事業の完了する翌年度に一括して実績報告となる。 なお、実施した一部の概算払いをうけることも可能。															
申請額の交付対象事業費に対して、実績額の交付対象事業費を変動させて記載する。 ※概算払いの時は金額が入るが、全額縦越の場合には0円となる。															
※地方縦越をする年度は、様式7－2の提出はなく、 様式7－年度終了実績報告を提出する。															

(単位：千円)

項目	事業年度		申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了までの受入可能額	差引額 (A-C)	備考		
			交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による増額調整後の交付金額) (C)	交付金受入済額						
④地方縦越の記載例 ※事業を完了した年度 ※交付決定年度の実績報告として提出する。			(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	最終的には0になる。		
			(当該年度分)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	200	0	0			
			(合計)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	200	0	0			
(内訳)	施設整備に関する計画支援事業 RO～RC		(過年度分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			(当該年度分)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	200	0	0	4,800千円はR(i)～R(i+1)の地方縦越		
			(合計)	15,000	5,000	5,000	15,000	5,000	5,000	200	0	0			
交付年度の申請額、申請額に対する実績として記入するため、当該年度分に記載する。															
過去年度実績と当該年度の未実績額の合計を記載する。															
過年度に概算払いを受けた交付金額を記載する。															
地方縦越があった旨、縦越金額を記載する。															

(単位：千円)

項目	事業年度		申請額			実績額				調整額 (C-B)	事業終了までの受入可能額	差引額 (A-C)	備考		
			交付対象事業費	交付金額	交付決定額 (A)	交付対象事業費	単年度交付額 (B)	交付金額 (年度間調整による増額調整後の交付金額) (C)	交付金受入済額						
⑤返還がある記載例			(過年度分)	150,000	50,000	50,000	150,000	50,000	50,000	50,000	0	0	0		
			(当該年度分)	300,000	100,000	100,000	294,000	98,000	98,000	100,000	0	2,000	2,000		
			(合計)	450,000	150,000	150,000	444,000	148,000	148,000	150,000	0	2,000	2,000		
(内訳)	エネルギー回収型廃棄物処理施設 RO～RC		(過年度分)	150,000	50,000	50,000	150,000	50,000	50,000	50,000	0	0	0		
			(当該年度分)	300,000	100,000	100,000	294,000	98,000	98,000	100,000	0	0	0		
			(合計)	450,000	150,000	150,000	444,000	148,000	148,000	150,000	0	0	0		
返還のポイント 過年度の実績報告における交付金額を再確定(減額)するものであり、交付金額と交付金受入済額の差引額を算出することにより返還額を確定するもの。 そのため、返還のために別途株式を作成するではなく、過去報告した様式を修正する形で提出すること。															
額の再確定は返還額が発生する年度の交付金額を再確定させるもの。そのため、当該年度分の交付金額の額の修正を行う。															
過年度の実績報告になるため、当時の額の指定により受け入れた交付金額を記載する。															
返還がある旨、返還金額を記載する。															

②記載例（年度間調整：今年度に年度間調整で増額する場合）

様式 7-2

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容			交付金の算出方法	
施設区分（事業名）	マテリアルリサイクル推進施設		交付限度額 $M = C \times 1/4$	
施設区分詳細	ストックヤード		前年度まで N	
処理能力	200m <sup>2</sup>		交付対象事業費実績 O	
全体事業	総事業費	100,000	合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A	90,000	過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費	20,000	交付限度額 $T = A \times 1/3$	30,000
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			前年度まで U	
本工事費		15,000	交付対象事業費実績 V	15,000
付帯工事費			合計 $W = U + V$	15,000
廃焼却施設解体費			進捗率 $X = W \div A$	16.66667%
用地費及び補償費			過年度受入済額 Y	
調査費			単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	5,000
工事雑費			交付限度額 $A A = B \times 1/2$	
その他			前年度まで A B	
工事費計 H		15,000	交付対象事業費実績 A C	
事務費 I			合計 $A D = A B + A C$	
事業費 J = H + I		15,000	進捗率 $A E = A D \div B$	
控除額 K			過年度受入済額 A F	
交付対象事業費 L = J - K		15,000	単年度交付額 $A G = A A \times A E - A F$	5,000
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		年度間調整による増額調整額 A H'	1,000
事務費の算出方法			交付金額 $A H + A H'$	6,000
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A V)			単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$	
事務費率 (A W)			年度間調整による増額調整額 A H'	
事務費限度額 (A X) = (A V) × (A W)			交付金額 $A H + A H'$	
直近下位の最高額 (A Y)			単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$	
工期全体の事務費 (A Z)			年度間調整による増額調整額 A H'	
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地域計画+次期地域計画 等)			単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$	
事務費の各年度配分			年度間調整による増額調整額 A H'	
<input type="radio"/>			単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$	

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

②記載例（年度間調整：今年度に年度間調整で増額する場合）

様式7-2（浄化槽設置整備事業）

令和n年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

（単位：千円）

事業の内容		交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	浄化槽設置整備事業	交付限度額（A／3） ※千円未満切捨 N	5,350	
全体事業	総事業費 78,500	1／3事業	前年度まで O 420	
全体事業	交付対象事業費 (1／3事業) A 16,050		今年度 P 15,210	
全体事業	交付対象事業費 (1／2事業) B 62,450		合計（O+P） Q 15,630	
当該年度事業	総事業費 27,700		進捗率（Q/A） ※小数点以下第5位まで表示 R 97.38318%	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			過年度受入済額 S 140	
浄化槽設置（別紙内訳 1. 浄化槽設置の合計額） C	5,976		単年度交付額 (N×R-S) ※千円未満切捨 T 5,070	
宅内配管工事（別紙内訳 2. 宅内配管工事の合計額） D	4,500		交付限度額（B／2） ※千円未満切捨 U 31,225	
撤去（別紙内訳 3. 撤去の合計額） E	900		前年度まで V 24,980	
雨水貯留槽等再利用（別紙内訳 4. 雨水貯留槽等再利用の合計額） F	450		今年度 W 11,826	
既設浄化槽の改築（別紙内訳 5. 既設浄化槽の改築の合計額） G	210		合計（V+W） X 36,806	
浄化槽災害復旧事業（別紙内訳 6. 浄化槽災害復旧事業） H	0	1／2事業	進捗率（X/B） ※小数点以下第5位まで表示 Y 58.93675%	
維持管理負担軽減事業（別紙内訳 7. 少人数高齢世帯の維持管理負担軽減事業の合計額） I			過年度受入済額 Z 12,490	
浄化槽整備効率化事業（別紙内訳 8. 浄化槽整備効率化事業の合計額） J	15,000		単年度交付額 (U×Y-Z) ※千円未満切捨 α 5,913	
小計（C～Jの計） K	27,036		単年度交付額（T+α） ※計算上の交付金上限額 10,983	
控除額 L	0		年度間調整による増額調整額 γ 332	
交付対象事業費（K-L） M	27,036	交付金額（β+γ）	11,315	
		様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する。		

※欄（行、列）の追加削除を行わないこと。

②記載例（年度間調整：今年度に年度間調整で増額する場合）

様式7-2(浄化槽設置整備事業) 別紙内訳

1. 浄化槽設置

区分		通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
		基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数											
浄化槽	5人槽	332	332	18	390			558	652		5,976				
	6~7人槽	414			474			695	792						
	8~10人槽	548			660			916	1,112						
	11~15人槽	939			1,002			1,359	1,460						
	16~20人槽	939			1,002			1,857	1,958						
	21~25人槽	1,472			1,545			2,221	2,327						
	26~30人槽	1,472			1,545			2,710	2,847						
	31~40人槽	2,037			2,129			3,014	3,162						
	41~50人槽	2,037			2,129			3,824	3,995						
	51人槽~	2,326			2,429			3,876	4,048						
窒素又は磷除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	360			408			588	664						
	6~7人槽	462			492			720	804						
	8~10人槽	585			684			936	1,132						
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426	1,526						
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192	2,318						
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760	2,904						
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208	3,366						
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728	3,904						
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294	4,486						
	51人槽~	2,850			2,979			4,750	4,965						
高度窒素除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	474			504			728	768						
	6~7人槽	570			654			958	1,014						
	8~10人槽	723			774			1,156	1,256						
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426	1,526						
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192	2,318						
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760	2,904						
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208	3,366						
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728	3,904						
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294	4,486						
	51人槽~	2,850			2,979			4,750	4,965						
窒素及び磷除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	528			558			758	800						
	6~7人槽	693			738			954	1,018						
	8~10人槽	963			1,029			1,288	1,383						
	11~15人槽	1,674			1,779			1,858	1,988						
	16~20人槽	1,674			1,779			2,858	3,020						
	21~25人槽	2,811			2,952			3,596	3,778						
	26~30人槽	2,811			2,952			4,180	4,384						
	31~40人槽	3,774			3,912			4,858	5,080						
	41~50人槽	3,774			3,912			5,598	5,844						
	51人槽~	4,201			4,386			7,001	7,310						
BOD除去能力に 関する高度処理型の 浄化槽	5人槽	489			516			722	762						
	6~7人槽	654			696			918	978						
	8~10人槽	903			963			1,232	1,322						
	11~15人槽	1,551			1,650			1,766	1,888						
	16~20人槽	1,551			1,650			2,716	2,870						
	21~25人槽	2,607			2,736			3,418	3,592						
	26~30人槽	2,607			2,736			3,972	4,166						
	31~40人槽	3,501			3,660			4,616	4,828						
	41~50人槽	3,501			3,660			5,318	5,550						
	51人槽~	3,906			4,080			6,510	6,800						
合計				18	0		0	0	0	0	5,976	0			

2. 宅内配管工事

	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	小計
5人槽	300	300	15	4,500
6~7人槽	300	0	0	0
8~10人槽	300	0	0	0
11~20人槽	300	0	0	0
21~30人槽	300	0	0	0
31~50人槽	300	0	0	0
51人槽~	300	0	0	0
合計			15	4,500

(単位:千円) (単位:千円)

	単独処理浄化槽の撤去			くみ取り槽の撤去			合併処理浄化槽の撤去			小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数		
5人槽	120	90	10	120	90	0	900	900	0		
6~7人槽	120	90	0	120	90	0	0				

②記載例（年度間調整：前年度の年度間調整で増額分を、今年度に減額する場合）

様式 7-2

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容			交付金の算出方法			
施設区分（事業名）	マテリアルリサイクル推進施設		交付限度額 $M = C \times 1/4$			
施設区分詳細	ストックヤード		前年度まで N			
処理能力	200m <sup>2</sup>		交付対象事業費実績 O			
全体事業	総事業費	100,000	合計 $P = N + O$			
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$			
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A	90,000	過年度受入済額 R			
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$			
当該年度事業	総事業費	18,000	交付限度額 $T = A \times 1/3$	30,000		
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			前年度まで U	15,000		
本工事費		18,000	交付対象事業費実績 V	18,000		
付帯工事費			合計 $W = U + V$	33,000		
廃焼却施設解体費			進捗率 $X = W \div A$	36.66667%		
用地費及び補償費			過年度受入済額 Y	6,000		
調査費			単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	5,000		
工事雑費			交付限度額 $A_A = B \times 1/2$	前年度の年度間調整分を含んだ額を記載すること。		
その他			前年度まで A_B			
工事費計 H		18,000	交付対象事業費実績 A_C			
事務費 I			合計 $A_D = A_B + A_C$			
事業費 J = H + I		18,000	進捗率 $A_E = A_D \div B$			
控除額 K			過年度受入済額 A_F			
交付対象事業費 L = J - K		18,000	単年度交付額 $A_G = A_A \times A_E - A_F$	減額調整の場合は、様式 7-1の調整額(C-B)とは一致しない。		
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		単年度交付額（実績） $A_H = S + Z + A_G$	5,000		
—			年度間調整による増額調整額 $A_{H'}$			
事務費の算出方法			交付金額 $A_H + A_{H'}$	5,000		
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A_V)				様式 7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する。		
事務費率 (A_W)						
事務費限度額 (A_X) = (A_V) × (A_W)						
直近下位の最高額 (A_Y)						
工期全体の事務費 (A_Z)						
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地域計画+次期地域計画 等)						
事務費の各年度配分						
<input type="radio"/>						

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

②記載例（年度間調整：前年度の年度間調整で増額分を、今年度に減額する場合）

様式 7-2 (浄化槽設置整備事業)

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容		交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	浄化槽設置整備事業	1 3 事業	交付限度額 (A / 3) ※千円未満切捨 N 5,350	
全体事業	総事業費 78,500		交付対象事業費実績 前年度まで O 15,630	
全体事業	交付対象事業費 (1 / 3 事業) A 16,050		今年度 P 210	
全体事業	交付対象事業費 (1 / 2 事業) B 62,450		合計 (O + P) Q 15,840	
当該年度事業	総事業費 13,364		進捗率 (Q / A) ※小数点以下第 5 位まで表示 R 98.69159%	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			過年度受入済額 S 5,210	
浄化槽設置（別紙内訳 1. 浄化槽設置の合計額） C	7,304		単年度交付額 (N × R - S) ※千円未満切捨 T 70	
宅内配管工事（別紙内訳 2. 宅内配管工事の合計額） D	4,500		交付限度額 (B / 2) ※千円未満切捨 前年度の年度間調整分を 含んだ額を記載すること。 31,225	
撤去（別紙内訳 3. 撤去の合計額） E	900		交付対象事業費実績 前年度まで V 36,806	
雨水貯留槽等再利用（別紙内訳 4. 雨水貯留槽等再利用の合計額） F	450		今年度 W 13,154	
既設浄化槽の改築（別紙内訳 5. 既設浄化槽の改築の合計額） G	210		合計 (V + W) X 49,960	
浄化槽災害復旧事業（別紙内訳 6. 浄化槽災害復旧事業） H	0		進捗率 (X / B) ※小数点以下第 5 位まで表示 Y 80.00000%	
維持管理負担軽減事業（別紙内訳 7. 少人数高齢世帯の維持管理負担軽減事業の合計額） I			過年度受入済額 Z 18,735	
浄化槽整備効率化事業（別紙内訳 8. 浄化槽整備効率化事業の合計額） J	0		単年度交付額 (U × Y - Z) ※千円未満切捨 6,245	
小計 (C ~ J の計) K	13,364		単年度交付額 (T + α) ※計算上の交付金上限額 β 6,315	
控除額 L	0		年度間調整による増額調整額 γ	
交付対象事業費 (K - L) M	13,364		交付金額 (β + γ) 6,315	
			様式 7-1 の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する。	

※欄（行、列）の追加削除を行わないこと。

②記載例（年度間調整：前年度の年度間調整で増額分を、今年度に減額する場合）

様式7-2(浄化槽設置整備事業) 別紙内訳

1. 浄化槽設置

区分		通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			通常			豪雪地帯又は特別豪雪地帯			小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
		基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数											
浄化槽	5人槽	332	332	22	390			558	652		7.304				
	6~7人槽	414			474			695	792						
	8~10人槽	548			660			916	1,112						
	11~15人槽	939			1,002			1,359	1,460						
	16~20人槽	939			1,002			1,857	1,958						
	21~25人槽	1,472			1,545			2,221	2,327						
	26~30人槽	1,472			1,545			2,710	2,847						
	31~40人槽	2,037			2,129			3,014	3,162						
	41~50人槽	2,037			2,129			3,824	3,995						
	51人槽~	2,326			2,429			3,876	4,048						
窒素又は磷除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	360			408			588	664						
	6~7人槽	462			492			720	804						
	8~10人槽	585			684			936	1,132						
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426	1,526						
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192	2,318						
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760	2,904						
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208	3,366						
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728	3,904						
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294	4,486						
	51人槽~	2,850			2,979			4,750	4,965						
高度窒素除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	474			504			728	768						
	6~7人槽	570			654			958	1,014						
	8~10人槽	723			774			1,156	1,256						
	11~15人槽	1,092			1,164			1,426	1,526						
	16~20人槽	1,092			1,164			2,192	2,318						
	21~25人槽	1,860			1,953			2,760	2,904						
	26~30人槽	1,860			1,953			3,208	3,366						
	31~40人槽	2,496			2,610			3,728	3,904						
	41~50人槽	2,496			2,610			4,294	4,486						
	51人槽~	2,850			2,979			4,750	4,965						
窒素及び磷除去能 力を有する高度処理 型の浄化槽	5人槽	528			558			758	800						
	6~7人槽	693			738			954	1,018						
	8~10人槽	963			1,029			1,288	1,383						
	11~15人槽	1,674			1,779			1,858	1,988						
	16~20人槽	1,674			1,779			2,858	3,020						
	21~25人槽	2,811			2,952			3,596	3,778						
	26~30人槽	2,811			2,952			4,180	4,384						
	31~40人槽	3,774			3,912			4,858	5,080						
	41~50人槽	3,774			3,912			5,598	5,844						
	51人槽~	4,201			4,386			7,001	7,310						
BOD除去能力に 関する高度処理型の 浄化槽	5人槽	489			516			722	762						
	6~7人槽	654			696			918	978						
	8~10人槽	903			963			1,232	1,322						
	11~15人槽	1,551			1,650			1,766	1,888						
	16~20人槽	1,551			1,650			2,716	2,870						
	21~25人槽	2,607			2,736			3,418	3,592						
	26~30人槽	2,607			2,736			3,972	4,166						
	31~40人槽	3,501			3,660			4,616	4,828						
	41~50人槽	3,501			3,660			5,318	5,550						
	51人槽~	3,906			4,080			6,510	6,800						
合計				22		0		0		0	7,304	0			

2. 宅内配管工事

	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	小計
5人槽	300	300	15	4,500
6~7人槽	300	0	0	0
8~10人槽	300	0	0	0
11~20人槽	300	0	0	0
21~30人槽	300	0	0	0
31~50人槽	300	0	0	0
51人槽~	300	0	0	0
合計			15	4,500

(単位:千円) (単位:千円)

	単独処理浄化槽の撤去			くみ取り槽の撤去			合併処理浄化槽の撤去			小計	うち単独槽・くみ取り槽からの転換に係る事業費(※4)
	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数	基準額 (1基当たり)	実績額 (1基当たり)	基数		
5人槽	120	90	10	120	90	0	900	900	0		
6~7人槽	120	90	0	120	90	0</td					

③記載例（事業間調整：今年度に事業間調整をする場合 ※調整元（進捗遅れ））

様式 7-2

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容			交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	マテリアルリサイクル推進施設		交付限度額 $M = C \times 1 / 4$		
施設区分詳細	ストックヤード		1／4事業	前年度まで N	
処理能力	200m <sup>2</sup>			今年度 O	
全体事業	総事業費	12,000		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1／4事業) C			進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1／3事業) A	12,000		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1／2事業) B			単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費	3,000		交付限度額 $T = A \times 1 / 3$ 4,000	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)				前年度まで U	
本工事費	当該年度総事業費や経費の配分も実績(出来高)を記載する。	3,000		今年度 V 3,000	
付帯工事費				合計 W 3,000	
廃焼却施設解体費				進捗率 $X = W \div A$ 調整元の計画額ではなく、実績(出来高)を記載する。 25.0000%	
用地費及び補償費				過年度受入済額 Y	
調査費				単年度交付額 $Z = T \times X - Y$ 1,000	
工事雑費			1／2事業	交付限度額 $A A = B \times 1 / 2$	
その他				前年度まで A B	
工事費計 H		3,000		今年度 A C	
事務費 I				合計 A D = A B + A C	
事業費 $J = H + I$		3,000		進捗率 $A E = A D \div B$	
控除額 K			1,000	過年度受入済額 A F	
交付対象事業費 $L = J - K$		3,000		単年度交付額 $A G = A A \times A E - A F$	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—	—		単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$ 1,000	
—			年度間調整による増額調整額 AH'		
事務費の算出方法			交付金額 $A H + A H'$	1,000	
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A V)			■ 様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する。		
事務費率 (AW)					
事務費限度額 (AX) = (AV) × (AW)					
直近下位の最高額 (AY)					
工期全体の事務費 (AZ)					
<input checked="" type="checkbox"/>	複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地域計画+次期地域計画 等)				
事務費の各年度配分					
<input type="radio"/>					

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

③記載例（事業間調整：今年度に事業間調整をする場合 ※調整先（進捗進んだ））

様式 7-2

令和 n 年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容			交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	施設整備に関する計画支援事業		交付限度額 $M = C \times 1 / 4$		
施設区分詳細	エネルギー回収型廃棄物処理施設		1／4 事業	前年度まで N	
処理能力	—			今年度 O	
全体事業	総事業費	7,800		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1／4 事業) C			進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1／3 事業) A	7,800		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1／2 事業) B			単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費	4,800		交付限度額 $T = A \times 1 / 3$ 2,600	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)				前年度まで U	
本工事費	当該年度総事業費や経費の配分も実績(出来高)を記載する。			今年度 V 4,800	
付帯工事費				合計 W 4,800	
廃焼却施設解体費				進捗率 $X = W \div A$ 61.53846%	
用地費及び補償費			1／3 事業	過年度受入済額 Y	
調査費		4,800		単年度交付額 $Z = T \times X - Y$ 1,599	
工事雑費				交付限度額 $A A = B \times 1 / 2$	
その他				前年度まで A B	
工事費計 H		4,800		今年度 A C	
事務費 I				合計 $A D = A B + A C$	
事業費 $J = H + I$		4,800		進捗率 $A E = A D \div B$	
控除額 K				過年度受入済額 A F	
交付対象事業費 $L = J - K$		4,800		単年度交付額 (実績) $A H = S + Z + A G$ 1,599	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—			年度間調整による増額調整額 A H, —	
—			1／2 事業	事業間調整のため、この欄 での増額調整ではない。	
事務費の算出方法				交付金額 $A H + A H'$ , 1,599	
工期全体の工事費 (工事雑費を除く) (A V)				様式7-1の交付金額(年度間 調整による増額調整後の交付 金額)(C)と一致する。 摘要	
事務費率 (A W)					
事務費限度額 (A X) = (A V) × (A W)					
直近下位の最高額 (A Y)					
工期全体の事務費 (A Z)					
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地計画+次期地計画 等)					
事務費の各年度配分					
<input type="radio"/>					

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

③記載例（事業間調整：前年度に事業間調整をした場合）

様式7-2

令和n年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

（単位：千円）

事業間調整を行った年度の次年度以降の記載は、 調整分は反映する必要はない、通常の実績報告と 同様の記載方法になる。		交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	マテリアルリサイクル推進施設	1／4事業	交付限度額 $M = C \times 1/4$	
施設区分詳細	ストックヤード		前年度まで N	
処理能力	200m <sup>3</sup>		今年度 O	
全体事業	総事業費		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1/3$	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			4,000	
本工事費	6,000		前年度まで U	
付帯工事費		1／3事業	今年度 V	
廃焼却施設解体費			合計 $W = U + V$	
用地費及び補償費			進捗率 $X = W \div A$	
調査費			過年度受入済額 Y	
工事雑費			単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	
その他		1／2事業	交付限度額 $A A = B \times 1/2$	
工事費計 H	6,000		前年度まで A B	
事務費 I			今年度 A C	
事業費 J = H + I	6,000		合計 $A D = A B + A C$	
控除額 K			進捗率 $A E = A D \div B$	
交付対象事業費 L = J - K	6,000		過年度受入済額 A F	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		単年度交付額 $A G = A A \times A E - A F$	
—			年度間調整による増額調整額 A H'	
事務費の算出方法			交付金額 $A H + A H'$	
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A V)			2,000	
事務費率 (A W)			2,000	
事務費限度額 (A X) = (A V) × (A W)			様式7-1の交付金額(年度間 調整による増額調整後の交付 金額) (G)と一致する。	
直近下位の最高額 (A Y)				
工期全体の事務費 (A Z)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地域計画+次期地域計画 等)				
事務費の各年度配分				
<input type="radio"/>				

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

③記載例（事業間調整：前年度に事業間調整をした場合）

様式7-2

令和n年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

事業間調整を行った年度の次年度以降の記載は、 調整分は反映する必要はなく、通常の実績報告と 同様の記載方法になる。		(単位：千円)		
		交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	施設整備に関する計画支援事業	1／4事業	交付限度額 $M = C \times 1/4$	
施設区分詳細	エネルギー回収型廃棄物処理施設		交付対象事業費実績 前年度までN	
処理能力	—		今年度O	
全体事業	総事業費		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1/3$	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			2,600	
本工事費			交付対象事業費実績 前年度までU	
付帯工事費		1／3事業	今年度V	
廃焼却施設解体費			合計 $W = U + V$	
用地費及び補償費			進捗率 $X = W \div A$	
調査費	3,000		過年度受入済額 Y	
工事雑費			単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	
その他		1／2事業	交付限度額 $A A = B \times 1/2$	
工事費計 H	3,000		交付対象事業費実績 前年度までA B	
事務費 I			今年度A C	
事業費 J = H + I	3,000		合計 $A D = A B + A C$	
控除額 K			進捗率 $A E = A D \div B$	
交付対象事業費 L = J - K	3,000		過年度受入済額 A F	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		単年度交付額 $A G = A A \times A E - A F$	
—			単年度交付額（実績） $A H = S + Z + A G$	
事務費の算出方法			年度間調整による増額調整額 A H'	
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A V)			交付金額 $A H + A H'$	
事務費率 (A W)			1,000	
事務費限度額 (A X) = (A V) × (A W)			様式7-1の交付金額(年度間 調整による増額調整後の交付 金額)(C)と一致する。	
直近下位の最高額 (A Y)				
工期全体の事務費 (A Z)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地計画+次期地計画 等)				
事務費の各年 度配 分				
O				

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

④記載例（地方繰越：繰越をする年度の場合）

様式7-2

令和<sub>n</sub>年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容	交付金の算出方法
施設区分（事業名） 施設整備に関する計画支援事業	交付限度額 $M = C \times 1 / 4$
費の各年度配分 ○	R(n+1) 4,800万円

交付決定年度の実績報告として提出するため、「今年度」に過年度実績と当該年度実績の合計額を記載する

地方繰越する年度は、当該事業に係る  
様式7-2は提出不要。  
当該事業に係る額の確定は行わず、  
様式8 年度終了実績報告書を提出する。  
(P19～P20 参照)

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

④記載例（地方縁越：事業を完了した年度の場合）

様式 7-2

令和  $n$  年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

(単位：千円)

事業の内容		継越した交付金の交付決定年度(当初以外は予算区分)交付金名とする。 ※事業実施する年度とは異なるため注意すること。		
施設区分（事業名）	施設整備に関する計画支援事業	1 ／ 4 事 業	交付限度額 $M = C \times 1/4$	
施設区分詳細	マテリアルリサイクル推進施設		前年度まで N	
処理能力	—		今年度 O	
全体事業	総事業費		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1/3$	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			20,000	
本工事費			前年度まで U	
付帯工事費		1 ／ 3 事 業	今年度 V	
廃焼却施設解体費			合計 V	
用地費及び補償費			交付決定年度の実績報告として提出するため、「今年度」に過年度実績と当該年度実績の合計額を記載する 15,000	
調査費	15,000		25.00000%	
工事雑費			過年度受入済額 Y	
その他		1 ／ 2 事 業	単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	
工事費計 H	15,000		交付限度額 $A A = B \times 1/2$	
事務費 I			前年度まで A B	
事業費 $J = H + I$	15,000		今年度 A C	
控除額 K			合計 $A D = A B + A C$	
交付対象事業費 $L = J - K$	15,000	1 ／ 2 事 業	進捗率 $A E = A D \div B$	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—		過年度受入済額 A F	
—	—		単年度交付額 $A G = A A \times A E - A F$	
事務費の算出方法			年度間調整による増額調整額 $A H'$	
工期全体の工事費（工事雑費を除く） (A V)			交付金額 $A H + A H'$	
事務費率 (A W)		n 年度に地方縁越をし、(n+1) 年度に地方縁越で事業を実施した場合、 n 年度の実績報告では、地方縁越分が「今年度」と「交付金額」に含まれる	5,000	
事務費限度額 (A X) = (A V) × (A W)			様式7-1の交付金額(年度間調整による増額調整後の交付金額)(C)と一致する。 (過年度の受入済み額と当該年度の受入額の合計を記載する。)	
直近下位の最高額 (A Y)				
工期全体の事務費 (A Z)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地計画+次期地計画 等)				
事務費の各年度配分		n 年度に地方縁越をし、(n+1) 年度に地方縁越で事業を実施した場合、 n 年度の実績報告では、地方縁越分が「今年度」と「交付金額」に含まれる		
<input type="radio"/>		R(n) 600千円 (受領済) R(n+1) 14,400千円		
○		交付金額 交付決定に係る交付金額 5,000千円 <内訳> R(n) 200千円 (受領済) R(n+1) 4,800千円		

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

⑤記載例（返還の場合）

様式 7-2

令和〇〇年度循環型社会形成推進交付金事業別表（実績報告）

（単位：千円）

事業の内容		交付金の算出方法		
施設区分（事業名）	エネルギー回収型廃棄物処理施設	1／4事業 交付対象事業費実績	交付限度額 $M = C \times 1/4$	
施設区分詳細	ごみ焼却施設		前年度まで N	
処理能力	100t/日		今年度 O	
全体事業	総事業費		合計 $P = N + O$	
全体事業	交付対象事業費 (1/4事業) C		進捗率 $Q = P \div C$	
全体事業	交付対象事業費 (1/3事業) A		過年度受入済額 R	
全体事業	交付対象事業費 (1/2事業) B		単年度交付額 $S = M \times Q - R$	
当該年度事業	総事業費		交付限度額 $T = A \times 1/3$	
当該年度事業に係る経費の配分 (交付対象事業費)			前年度まで U	
本工事費	全体事業、当該年度事業や経費の配分を変更する。		今年度 V	
付帯工事費			合計 V	
廃焼却施設解体費		1／3事業 交付対象事業費実績	交付決定年度の実績報告として提出するため、「今年度」に過年度実績と当該年度実績の合計額を記載する	
用地費及び補償費			過年度受入済額 Y	
調査費			単年度交付額 $Z = T \times X - Y$	
工事雑費			交付限度額 $AA = B \times 1/2$	
その他			前年度まで AB	
工事費計 H	294,000	1／2事業 交付対象事業費実績	今年度 AC	
事務費 I			合計 $AD = AB + AC$	
事業費 J = H + I	294,000		進捗率 $AE = AD \div B$	
控除額 K			過年度受入済額 AF	
交付対象事業費 L = J - K	294,000		単年度交付額 $AG = AA \times AE - AF$	
総事業費と交付対象事業費の差額の比較	—	事務費の算出方法	単年度交付額（実績） $AH = S + Z + AG$	
—			年度間調整による増額調整額 AH'	
事務費の算出方法			交付金額 $AH + AH'$	
工期全体の工事費（工事雑費を除く）(AV)		事務費の各年度配分 ○	様式7-1の交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）(C)と一致する。 (再確定後の金額を記載する。)	
事務費率 (AW)			<返還金額の算出式> 令和〇年度 受入済交付金額 100,000千円 交付金実績額（再確定額） 98,000千円	
事務費限度額 (AX) = (AV) × (AW)			報告当初の実績（受入済交付金額）から再確定した実績額を差し引き、返還額を算出。	
直近下位の最高額 (AY)			(過年度受入済額) - (交付金実績額) = (返還額) 100,000千円 - 98,000千円 = 2,000千円	
工期全体の事務費 (AZ)			<交付金返還の理由> 本事業は令和n年度に事業が終了したが、令和n年度までに受けた交付額が事業の進捗率により算出される交付額を上回っているため令和〇年度の交付額を再確定し差額を返還するもの。 交付金の返還理由について簡潔に記載すること。	
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の地域計画に跨がる事業の場合はチェック (現地計画+次期地計画 等)				
事務費の各年度配分				
○				

※欄（行、列）の追加・削除を行わないこと。

【記載例】事業費内訳書

(3) エネルギー回収型廃棄物処理施設、高効率ごみ発電施設

【○△処理センター】	全体			過年度分			当該年度分			記載例は下記の設定で作成しています。 1年目（過年度分）で進捗率30% 2年目（当該年度分）で進捗率70% 3年目で進捗率100%	
	項目	金額	算定金額		金額	算定金額		金額	算定金額		
			現場管理費率等	交付対象事業費		交付対象外事業費	直接工事費		(円)		
			直接工事費			直接工事費			直接工事費		
① 受入・供給設備（搬入・退出路を除く。）	650,790,000		624,862,000	25,928,000	195,237,000	187,459,000	7,778,000	260,316,000	249,945,000	10,371,000	
② 前処理設備				0			0			0	
③ 固形燃料化設備・メタン等発酵設備・その他ごみの燃焼化に必要な設備				0			0			0	
④ 燃焼設備・乾燥設備・焼却残さ溶融設備・その他ごみの焼却に必要な設備	576,993,000		576,993,000	0	173,098,000	173,098,000	0	230,797,000	230,797,000	0	
⑤ 燃焼ガス冷却設備	2,406,436,000		2,406,436,000	0	721,931,000	721,931,000	0	962,574,000	962,574,000	0	
⑥ 排ガス処理設備（湿式法の設備を除く。）	649,436,000		649,256,000	180,000	194,831,000	194,777,000	54,000	259,774,000	259,702,000	72,000	
⑦ 余熱利用設備・エネルギー回収設備（発生ガス等の利用設備を含む。）	265,851,000		261,645,000	4,206,000	79,755,000	78,494,000	1,261,000	106,340,000	104,658,000	1,682,000	
⑧ 通風設備	252,269,000		252,269,000	0	75,681,000	75,681,000	0	100,908,000	100,908,000	0	
⑨ 灰出し設備（灰固形化設備を含む。）	488,662,000		481,116,000	7,546,000	146,599,000	144,335,000	2,264,000	195,465,000	192,446,000	3,019,000	
⑩ 残さ物等処理設備（資源化設備を含む。）				0			0			0	
⑪ 搬出設備				0			0			0	
⑫ 排水処理設備（湿式法による排ガス処理設備からの排水処理に係る部分を除く。）	48,918,000		47,608,000	1,310,000	14,675,000	14,282,000	393,000	19,567,000	19,043,000	524,000	
⑬ 換気、除じん、脱臭等に必要な設備				0			0			0	
⑭ 冷却、加温、洗浄、放流等に必要な設備				0			0			0	
⑮ 薬剤、水、燃料の保管のための設備				0			0			0	
⑯ 消火設備その他の火災防止に必要な設備				0			0			0	
⑰ 前各号の設備の設置に必要な電気、ガス、水道等の設備	1,290,239,000		1,281,497,000	8,742,000	387,072,000	384,449,000	2,623,000	516,096,000	512,599,000	3,497,000	
前各号の設備と同等の性能を發揮するもので前各号の設備に代替して設置し使用される備品（ただし、前各号の設備を設置し使用する場合と費用対効果が同等以上であるものに限る。）				0			0			0	
⑲ 前各号の設備の設置に必要な建築物	2,462,525,000		1,993,782,000	468,743,000	738,758,000	598,135,000	140,623,000	985,010,000	797,513,000	187,497,000	
⑳ 搬入車両に係る洗車設備				0			0			0	
㉑ 電気、ガス、水道等の引込みに必要な設備				0			0			0	
㉒ 前各号の設備の設置に必要な擁壁、護岸、防潮壁等				0			0			0	
その他土木建築工事(自由記載)	27,639,000		27,639,000		8,292,000		8,292,000	11,056,000		11,056,000	
直接工事費合計額①	9,119,758,000		8,575,464,000	544,294,000	2,735,929,000	2,572,641,000	163,288,000	3,647,903,000	3,430,185,000	217,718,000	
直接工事費のうち特殊製品費②	1,005,231,000		574,015,000	431,216,000	301,569,000	172,204,000	129,365,000	402,092,000	229,606,000	172,486,000	
共通仮設費③	242,584,000		208,166,000	34,418,000	72,775,000	62,450,000	10,325,000	97,034,000	83,266,000	13,768,000	
純工事費④（①+③）	9,362,342,000		8,783,630,000	578,712,000	2,808,704,000	2,635,091,000	173,613,000	3,744,937,000	3,513,451,000	231,486,000	
現場管理費⑤ (③-②)/2 × 現場管理費率)	555,945,000	5.4%	459,867,000	96,078,000	166,784,000	137,960,000	28,824,000	222,378,000	183,947,000	38,431,000	
工事原価⑥（④+⑤）	9,918,287,000		9,243,497,000	674,790,000	2,975,488,000	2,773,051,000	202,437,000	3,967,315,000	3,697,398,000	269,917,000	
一般管理費⑦ (⑥-⑤)-般管理費率)	664,628,000	6.1%	567,315,000	97,313,000	199,388,000	170,194,000	29,194,000	265,851,000	226,926,000	38,925,000	
その他付帯工事(自由記載)⑧				0			0			0	
廃却施設解体費⑧	636,268,000		628,630,000	7,638,000	190,880,000	188,589,000	2,291,000	254,507,000	251,452,000	3,055,000	
用地費及び補償費⑧				0			0			0	
調査費⑧				0			0			0	
工事雜費⑧	132,774,420		113,728,220	19,046,200	39,832,330	34,118,470	5,713,860	53,109,770	45,491,290	7,618,480	
事務費⑧	201,756,000		51,694,000	150,062,000	60,527,000	15,508,000	45,019,000	80,702,000	20,678,000	60,024,000	
その他の工事⑧				0			0			0	
本事業費⑨（⑥+⑦+⑧）	11,553,713,420		10,604,864,220	948,849,200	3,466,115,330	3,181,460,470	284,654,860	4,621,484,770	4,241,945,290	379,539,480	
消費料相当額⑩	1,155,371,342		1,060,486,422	94,884,920	346,611,533	318,146,047	28,465,486	462,148,477	424,194,529	37,953,948	
本事業費（税込）⑪（⑨+⑩）	12,709,084,762		11,665,350,642	1,043,734,120	3,812,726,863	3,499,606,517	313,120,346	5,083,633,247	4,666,139,819	417,493,428	

様式7-2「全体事業」に記載の総事業費と同額になるようにしてください。

様式7-2「全体事業」に記載の交付対象事業費と同額になるようにしてください。

様式7-2「当該年度事業に係る経費の配分」に記載の交付対象事業費と同額になるようにしてください。

【備考】

(1) 1つの事業で複数工事を行った場合は、上記表にまとめた金額で記載してください。

(2) 黄色着色部分をご入力ください。

(3) 「その他土木建築工事(自由記載)」及び「その他付帯工事(自由記載)」については、複数ある場合に随時行を追加してください。

判定

○

○

【記載例】

様式第8 交付金事業年度終了実績報告書

様式8－1

文 書 番 号  
年 月 日

○○○ 知 事 殿

申 請 者 氏 名 △△市長 ○○ ○○ ※1

令和〇※2年度循環型社会形成推進交付金

年度終了実績報告書

令和××年××月××日付環循適発第×××号※3をもって交付金の交付決定を受けた

令和〇※1年度循環型社会形成推進交付金について、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第14条後段の規定により、関係書類を添えて報告します。

(備考)

1. 本様式に様式8－2をあわせたものが報告書である。
2. 繰越手続きを行った場合、繰越計算書（明許又は事故）、翌年度に亘る債務負担の要求書、箇所別調書及び理由書、工程表、その他参考資料を合わせて添付すること。

本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

## 【記載例】

### ※記載内容の説明

- ※1 原則として公印は省略すること。なお、事業主体側の文書規定等の都合により、公印を省略することができない場合は公印を押印して提出してもよい。
- ※2 交付決定を受けた年度の数字を記載。
- ※3 環境省の交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。ただし、変更交付決定を受けた場合は変更交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。

【記載例】

様式 8-2

※1 令和 n 年度交付対象事業の完了予定期日変更報告書											
事業主体名 : △△市											
循環型社会形成推進地域計画承認通知年月日 : 令和×年×月×日			循環型社会形成推進地域計画期間 : 令和×年度 ~ 令和×年度			※2					
(単位 : 千円)											
交付対象事業名	※3 交付決定の内容			年度内遂行実績			翌年度繰越額		完了予定期日		変更の理由
	事業費	交付対象事業費	交付金額	事業費支払実績(見込)額	事業進捗率(%)	交付金受入額	交付対象事業費	交付金額	変更前	変更後	
施設整備に関する計画支援事業	15,000	15,000	5,000	0	0%	0	14,400	4,800	令和〇年〇月〇日	令和〇年〇月〇日	〇〇のため
↑全額繰越の場合の例											
施設整備に関する計画支援事業	15,000	15,000	5,000	600	4%	200	14,400	4,800	令和〇年〇月〇日	令和〇年〇月〇日	〇〇のため
↑概算払がある場合の例											

**基本事項**

本様式については、予算区分ごとに作成すること。

概算払を受ける事業について記載する

また、事業数に合わせて、行を追加、削除などの調整をして構わない。

※1

年度、交付金名を様式8-1と合致させること。本省繰越予算等で交付決定された実績報告については、令和〇年度(令和××年度からの当初予算繰越分)というように繰越予算であることがわかるように記載すること。

※2

・循環型社会形成推進地域計画承認通知年月日

環境大臣による承認通知年月日を記載。計画の変更を行っている場合は、当初の計画の承認通知年月日でなく、変更計画の承認通知年月日を記載すること。

また、変更報告の場合は変更報告年月日を記載すること。

なお、同一事業主体において複数の地域計画を作成している場合(生活排水処理基本計画をもって地域計画に代えている場合等)は、複数の地域計画にかかる年月日を併記すること。

・循環型社会形成推進地域計画期間

地域計画の計画期間を年度で記載。

なお、同一事業主体において複数の地域計画を作成している場合(生活排水処理基本計画をもって地域計画に代えている場合等)は、複数の地域計画期間を併記すること。

※3

・交付決定の内容

「事業費」

当該年度事業に係る総事業費を記載すること。

「交付対象事業費」、「交付金額」

交付申請書様式1-2の交付対象事業費、交付金額(申請額)と合致させる。

ただし、変更交付決定を受けている場合は、様式3の改交付決定額の(上段:交付対象事業費)(下段:国費)を記載。

・年度内遂行実績

「事業費支払実績(見込)額」

当該年度の交付対象事業費に対する支払実績(見込)を記載。

「事業進捗率(%)」

(事業費支払実績(見込)額) / (交付対象事業費) × 100 (%)

「交付金受入額」

概算払を受ける場合、事業進捗率(%)に基づく金額を記載。

・翌年度繰越額、完了予定期日及び変更理由は、原則地方繰越承認時の理由書内容に合わせること。

【記載例】①返還が生じない場合

別紙様式(1)

番 号

令和〇※<sup>1</sup>年度循環型社会形成推進交付金交付額確定通知書

〇 〇 市※<sup>2</sup>

令和〇年××月××日付環循適発第×××××号※<sup>3</sup>で交付決定した令和〇※<sup>1</sup>年度循環  
型社会形成推進交付金については、令和〇年〇月〇日付第×××××××号※<sup>4</sup>の事業実  
績報告に基づき、交付額を金〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇円※<sup>5</sup>に確定したので通知する。

令和〇年〇月〇日※<sup>6</sup>

都道府県知事 △△ △△

(本件担当官の氏名、連絡先等)  
担当者の所属部署・職名・氏名  
連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

## 【記載例】①返還が生じない場合

### ※記載内容の説明

- ※1 交付決定を受けた年度の数字を記載。
- ※2 事業主体名を記載。
- ※3 環境省の交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。ただし、変更交付決定を受けた場合は変更交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。
- ※4 事業主体から提出された様式7-1の文書番号及び日付を記載。
- ※5 都道府県知事が確定した交付金の額を記載(様式7-1の当該年度分の「交付金額(C)」の合計額と合致)。
- ※6 都道府県知事が交付金の額の確定を行った日付を記載。

## 【記載例】②返還が生じる場合

別紙様式(1)

番 号

令和〇<sup>※1</sup>年度循環型社会形成推進交付金交付額確定通知書

× × 市<sup>※2</sup>

令和〇年〇月〇日付環循適発第×××××号<sup>※3</sup>で交付決定した令和〇<sup>※1</sup>年度循環型社会形成推進交付金については、令和〇年〇月〇日付第×××××××号<sup>※4</sup>の事業実績報告に基づき、交付額を金〇〇〇〇〇〇〇〇〇円<sup>※5</sup>に確定したので通知する。

なお、超過交付となった金〇〇〇〇〇〇〇〇円<sup>※6</sup>については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号）第 18 条第 2 項の規定により、令和〇年〇月〇日まで<sup>※7</sup>に返還することを命ずる。

令和〇年〇月〇日<sup>※8</sup>

都道府県知事 △△ △△

(本件担当官の氏名、連絡先等)  
担当者の所属部署・職名・氏名  
連絡先（電話番号・E メールアドレス）

### ※記載内容の説明

- ※1 交付決定を受けた年度の数字を記載。
- ※2 事業主体名を記載。
- ※3 環境省の交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。ただし、変更交付決定を受けた場合は変更交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。
- ※4 事業主体から提出された様式 7-1 の文書番号及び日付を記載。
- ※5 都道府県知事が確定した交付金の額を記載（様式 7-1 の当該年度分の「交付金額(C)」の合計額と合致）。
- ※6 交付金の額の確定の結果、超過交付となった額を記載。
- ※7 原則として、交付金の額の確定の通知の日から 20 日以内の日付を期限として設定。
- ※8 都道府県知事が交付金の額の確定を行った日付を記載。

別紙様式(2)

【記載例】②返還が生じる場合

債 権 発 生 通 知 書

番 号  
令和〇年〇月〇日※1

歳入徵収官  
○○県 ○○○ 殿

都道府県知事 △△ △△

下記のとおり債権が発生したので通知する。

債務者の名称	××市
債権発生額	<u>○○○○○○○○円</u> ※2
発生年月日	<u>令和〇年〇月〇日</u> ※3
発生理由	補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和0年法律第179号）第18条第2項による交付金の額の確定に伴う超過交付額の返還
債権の内容	<p>(履行期限) <u>令和〇年〇月〇日</u>※4</p> <p>(利率その他利息に関する事項) なし</p> <p>(延滞金に関する事項) 補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第19条第2項の規定により、年10.95%</p> <p>(歳入科目) (項) 弁償及返納金 (目) 返納金</p>

※記載内容の説明

※1 原則として、都道府県知事が交付金の額の確定を行った日付と同日で通知。

※2 返還を命じた額(超過交付額)となる。

※3 都道府県知事が交付金の額の確定を行った日付を記載。

※4 返還を命じた際に定めた返還期限の日付を記載。

## 交付額確定報告書

別紙様式(3)

番 号

令和〇年〇月〇日※1

環 境 大 臣 殿

都道府県知事 △△ △△

令和〇※2年度循環型社会形成推進交付金交付額確定報告書

令和〇年〇月〇日付環循適発第〇〇〇〇〇号※3で交付決定した令和〇※2年度循環型社会形成推進交付金については、別紙のとおり交付額を確定したので報告する。

(備考) 交付額確定通知書及び事業実績報告書の写を添付すること。

本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

### ※記載内容の説明

※1 交付額確定通知書を事業主体に発出した後、速やかに本確定報告を行うこと。

※2 交付決定を受けた年度の数字を記載。

※3 環境省の交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。ただし、変更交付決定を受けた場合は変更交付決定通知依頼書の文書番号、日付を記載。

(4) 実績報告及び額の確定提出前チェックリスト

項目	チェック項目	チェック	確認方法
様式 7 - 1	標題の交付金名に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	標題の年度は交付決定を受けた年度の数字を記載しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	すべての様式が揃っているか。また（備考）に記載している場合は記載の様式に漏れはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 提出書類一式
	事業名に誤りがないか。（交付要綱別表1に掲げられている事業名となっているか。）	<input type="checkbox"/>	→ 要綱、地域計画
	申請額の交付対象事業費は交付申請書と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書
	申請額の交付金額は交付申請書と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書
	交付対象事業費に交付率を乗じて算出した額に間違いないか。（補助率が1/2の事業と1/3の事業が合計されている場合は特に注意すること。）	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	交付金額に当該年度の実績額を記載したか。（年度間調整、事業間調整を行った後の金額を記載。）	<input type="checkbox"/>	→ -
	概算払い、部分払いの場合に交付金受入済額に金額を記載したか。（精算払であれば当該年度分は0を記載。）	<input type="checkbox"/>	→ -
	各項目の合計など数値に間違いないか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
年度間調整 (増額調整)	交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）は交付対象事業費を超えていないか。（年度間調整の限度額を超えていないか。）	<input type="checkbox"/>	→ -
	調整額が入力されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	備考欄に年度間調整を行ったことについて記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
年度間調整 (減額調整)	交付申請額は、前年度の増額調整分が差し引かれて申請されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書
	交付対象事業費に前年度増額調整をした部分を含んだ実績が記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書
	交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）は単年度交付額（B）よりも低い数値が記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
事業間調整	調整額（C - B）は最終的に0になっているか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
	申請額の交付対象事業費と実績額の交付対象事業費は適切な金額が記載されているか（同額にはならない）。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	事業間調整を行った事業の申請額の交付対象事業費と交付金額の各項目の合計は実績額の交付対象事業費と交付金額の各項目の合計と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
	交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）は単年度交付額（B）と同値か。	<input type="checkbox"/>	→ 実績報告額表
地方縁越	備考欄にどの事業でどれだけ事業間調整を行ったか記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	（地方縁越をする年度の場合）申請額の交付対象事業費と実績額の交付対象事業費は適切な金額が記載されているか（同額にはならない）。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	（概算払の場合）交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）は単年度交付額（B）と同値か。	<input type="checkbox"/>	→ 実績報告額表
	（地方縁越をする年度の場合）地方縁越をする金額は年度終了実績報告書の金額と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 年度終了実績報告書
返還 ※1	備考欄に地方縁越を行うことについて記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	標題の年度に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 過年度の実績報告額表
	実績額の交付金受入済額に金額が記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 過年度の実績報告額表
様式 7 - 2	再確定する実績額の交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）は交付金受入済額よりも低い額か。	<input type="checkbox"/>	→ 実績報告額表
	標題の交付金名に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	事業名に誤りがないか。（交付要綱別表1に掲げられている事業名となっているか。）	<input type="checkbox"/>	→ 地域計画
	処理能力や処理方式が空欄となっていないか。（計画支援事業は除く。）	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書、地域計画
	全体事業総事業費が地域計画に記載されている総事業費と整合がとれているか。	<input type="checkbox"/>	→ 地域計画
	全体事業総交付対象事業費が現地域計画に記載されている当該事業の総交付対象事業と整合がとれているか。	<input type="checkbox"/>	→ 地域計画
	当該年度事業総事業費（または過年度分を含めた累計）が全体事業総事業費内に収まっているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	交付対象経費の内訳は適切な項目に計上されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 地域計画等
共通	事務費を計上する場合、摘要欄に事務費の各年度配分を記載しているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	交付対象事業費は様式7-1実績報告額表の当該年度交付対象事業費の実績と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 様式7-1

項目	チェック項目	チェック	確認方法
様式 7 - 2	共通 廃焼却施設の解体等において、有価物の売却益等の控除すべき金額がある場合、適切に控除額に計上しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	交付金額は様式7-1交付金実績報告額表の交付金額（年度間調整による増額調整後の交付金額）（C）と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	年度間調整 (増額調整) 交付金額は交付対象事業費の金額の範囲内か。	<input type="checkbox"/>	→ 様式7-1
	交付金額は単年度交付額と年度間調整による増額調整額の合計になっているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	年度間調整 (減額調整) 当該年度の交付対象経費に過年度に増額調整して受け入れた交付金額に相当する実績が含まれているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	過年度受入済額に増額調整分が含まれているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	交付金額は様式7-1交付金実績報告額表の単年度交付額（B）よりも低い額か。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	標題の年度に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書
	交付金額は再確定した額に変更されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	摘要欄の交付金額の算出式は再確定した額が算出されるものになっているか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
様式 7 - 3	返還 ※1 摘要欄の返還金の算出式は正しく記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
	摘要欄に交付金返還の理由を簡潔に記載しているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	国庫交付金の交付金額は様式7-2に記載する交付金額の合計と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	地方負担金の内訳は適切な項目に計上されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付申請書等
	地方負担金の内訳のうち、その他に計上されているものがある場合、その他の下部の括弧内に内容が記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ -
交付 額 確 定 通 知 書	地方負担金の計に国庫交付金が含まれていないか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
	総事業費は国庫交付金と地方負担金の計の合計となっており、様式7-2の当該年度総事業費の合計と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 検算
	共通 標題の交付金名に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	※3環境省からの交付決定通知依頼書の番号に誤りはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	※4事業主体から提出された様式7-1の文書番号・日付に間違いはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 様式7-1
	※5確定した交付金の額に間違いはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 様式7-1
	※6の額の確定の日付に間違いはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 要領1.2
	返還 債権発生通知書の日付は額の確定を行った日付と一致しているか。また発生年月日と一致しているか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付額確定通知書
	債権発生額は間違いなく記載されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 様式7-2
	発生理由は記載したか。	<input type="checkbox"/>	→ -
交付 額 確 定 報 告 書	履行期限は正しく設定されているか。	<input type="checkbox"/>	→ 要領1.2
	債権の内容の各項目は記載したか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	共通 日付に問題はないか。	<input type="checkbox"/>	→ -
	標題の交付金名に誤りがないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	標題の年度に誤りはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	※3環境省からの交付決定通知依頼書の番号に誤りはないか。	<input type="checkbox"/>	→ 交付決定通知書等
	必要書類を添付しているか。	<input type="checkbox"/>	→ -

※1 あくまで返還の一例の場合のチェック項目であり、返還事由によってはここに記載の項目のみを満たせばよいものではないので注意すること。

## 別添補足 額の確定に係るフロー図

### 実績報告及び額の確定における前提

○本交付金は事業主体に対して交付しているため、事業が複数あっても同一事業主体で1つの実績報告にて提出

○本交付金は単年度交付であるため、交付を受けた年度毎に実績報告書を提出

※そのため実績報告書の表題は、交付決定年度になる。

※地方縁越がある場合は、事業実施年度が翌年度であっても、交付決定年度の実績報告書として提出

(例) Rn年度→R(n+1)年度地方縁越(Rn年度交付決定)、R(n+1)年度に事業実施 → Rn年度の実績報告書として提出

(例) Rn年度→R(n+1)年度地方縁越(Rn年度交付決定)があり、かつ R(n+1)年度でも実施事業がある場合 → 地方縁越分含めた Rn年度実績報告書及び R(n+1)年度の実績報告書(過年度分欄に地方縁越分含む)の2枚提出



同一事業主体で複数の事業を実施している。

※「事業」について、ここではエネルギー回収型廃棄物処理/浄化槽設置整備事業等の交付要綱別表1に掲げる  
ような事業を指す。

地方縁越を実施する事業がある

地方縁越以外で実施している事業は、交付決定  
年度の3月末までに事業完了し、精算できる

(例) A事業（地方縁越）は翌年度完了・翌年度精算  
B事業（当年度完了）は3月完了・3月精算

地方縁越分は年度終了実績報告書  
それ以外の事業は実績報告書（部分終了）

(例) A事業（地方縁越）は翌年度完了・翌年度精算

B事業（当年度完了）は3月完了・4月精算

※予算決算及び会計令第4条より、支出官において毎会計年  
度に属する経費を精算して支出するのは「四月三十日限り」  
であるため、精算払のみの対応となる。

※ADAMS上でも、4月の出納整理期間中は「精算払」しか選  
択できない。  
(①年度終了実績報告書) 当該事業完了日が属する年度の翌  
年度の4月30日までに提出

(例) A事業についての年度終了実績報告書

(②実績報告書) 事業完了の日から起算して1ヶ月を経過し  
た日又は当該事業完了日が属する年度の翌年度の4月10日  
のいずれか早い日までに提出

(例) B事業についての実績報告書

額の確定（部分確定）

(例) A事業（地方縁越）は翌年度  
B事業（当年度終了）は実績報告書を以て額の確定（部  
分確定）を実施。

実績報告書

（地方縁越分の実績報告書追加・全部終了）

(例) 地方縁越分の事業が完了後(n+1年度)に、「n年度  
分」の部分終了実績報告書にA事業（地方縁越）分を追記する  
形で提出。

実施事業すべて、交付決定年度中（交付決定年  
度の3月まで）に事業が完了する

実施の一部事業において、支払時期が他の事業  
と異なるものがある

(例) A事業は3月完了・3月精算  
B事業は3月完了・4月精算

**実績報告**

事業完了の日から起算して1ヶ月を経過  
した日又は当該事業完了日が属する年度  
の翌年度の4月10日のいずれか早い日  
までに提出

**額の確定**

実績報告受理後原則20日以内に実施し、額  
の確定通交付後、すみやかに額の確定通知  
の写し及び実績報告書の写しを提出

**概算払をして実績報告書**

概算払いを実施する場合は環境省担当に協議すること。

(交付取扱要領第13項)

※本交付金は事業主体に対して交付しているものであるた  
め、概算払可能時期である3月にB事業の精算をしても、事  
業主体に対する交付事業全体としてみると概算払整理でき  
る。

※事業主体に対する交付事業全体と整理可能であるため、実  
績報告書は、当年度実施事業全て完了後、まとめて報告する  
ことができる。

(例) n年度終了実績報告書

A事業（地方縁越）：翌年度(n+1年度)完了・翌年度精算払

B事業（当年度終了）：3月完了・3月概算払

(n+1年度（地方縁越事業終了後）に全事業分の実績報告  
書を提出)

**額の確定（全部確定）**

地方縁越分の実績報告受理後原則20日以内に実施し、額  
の確定通交付後、すみやかに額の確定通知の写し及び実  
績報告書の写しを提出。

(例) A事業とB事業分をまとめて額の確定。

※概算払で過払があった場合は返還となるため注意（交  
付要領第12項）

**額の確定**

（地方縁越事業終了後・全部確定）

(例) 未確定分（A事業：地方縁越）の確定を実施。

環循適発第 2102043 号  
令和 3 年 2 月 4 日

各 都 道 府 県 知 事 殿

環境省  
環境再生・資源循環局長  
(公 印 省 略)

### 循環型社会形成推進交付金等の額の確定について

循環型社会形成推進交付金等の額の確定については、平成 18 年 3 月 24 日付け環廃対発第 060324013 号環境省廃棄物・リサイクル対策部長通知により行われているところであるが、今般、電子情報処理組織による申請等を追加し、次により取扱うこととしましたので、よろしくお取り計らい願います。

なお、令和 3 年 2 月 4 日から適用いたします。

#### 1. 審査要領

審査に当たっては、中間検査、竣工検査、現地調査等の報告書（復命書）等を準備し、必要に応じ参照し適正を期すること。

##### ア. 書類審査

歳入歳出決算議決書、設計計算書、設計図面、工事写真及び契約書の写し等を必要に応じて準備し、参照して審査すること。

##### イ. 実地調査

必要に応じて実地による調査を行うこと。

#### 2. 確定通知等

ア. 事業実績報告書の書類審査及び必要に応じて行う実地調査等により、交付金事業が交付金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めたときは、交付金の額を確定し、別紙様式(1)による交付額確定通知書を当該市町村（一部事務組合、広域連合及び特別区を含む。以下同じ。）に交付するとともに、国の支出官たる都道府県出納長あてその写を一部送付すること。なお、確定事務は、事業実績報告書受理後原則として 20 日以内に完了すること。

イ. 確定事務を行い返納すべき額が生じた場合には、交付額確定通知書の写を添付の上、別紙様式(2)による債権発生通知書を確定後速やかに歳入徴収官あて送付すること。

### 3. 確定報告

上記により交付額確定通知書を当該市町村に交付した後速やかに、別紙様式(3)により交付額確定通知書及び事業実績報告書の写しを添えて環境大臣あて報告すること。

### 4. 電子情報処理組織による申請等

上記2の規定に基づく確定通知等及び3の規定に基づく確定報告については、電子情報処理組織を使用する方法（適正化法第26条の2及び3の規定に基づき環境大臣が定めるものをいう。）により行うことができる。

別紙様式(1)

番 号

令和 年度循環型社会形成推進交付金交付額確定通知書

○○市町村（組合）名

令和 年 月 日付環循適発第 号で交付決定した令和 年度循環型社会形成  
推進交付金については、令和 年 月 日付第 号の事業実績報告に基づき、交  
付額を金 円に確定したので通知する。

なお、超過交付となった金 円については、補助金等に係る予算の執行の適正  
化に関する法律（昭和30年法律第179号）第18条第2項の規定により、令和 年 月 日  
までに返還することを命ずる。

令和 年 月 日

都道府県知事

(本件担当官の氏名、連絡先等)  
担当者の所属部署・職名・氏名  
連絡先（電話番号・E メールアドレス）

(注) なお書きは、返納額を生じた場合のみ記載すること。

別紙様式(2)

債 權 発 生 通 知 書

番 号  
年 月 日

歳入徴収官

○ ○ 県出納長 殿

都道府県知事

下記のとおり債権が発生したので通知する。

債務者の名称	
債 権 発 生 額	
発 生 年 月 日	
発 生 理 由	
債 権 の 内 容	

参考資料（循環型社会形成推進交付金等の額の確定について）

別紙様式(3)

番号  
年月日

環境大臣殿

都道府県知事

令和 年度循環型社会形成推進交付金交付額確定報告書

令和 年 月 日付環循適発第 号で交付決定した令和 年度循環型社会形成  
推進交付金については、別紙のとおり交付額を確定したので報告する。

（備考）交付額確定通知書及び事業実績報告書の写を添付すること。

本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

- (1) 責任者の所属部署・職名・氏名
- (2) 担当者の所属部署・職名・氏名
- (3) 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

## 参考資料（循環型社会形成推進交付金事業チェックリスト）

日付：令和〇年〇月〇日

担当：〇〇県 〇〇課

## 【記載例】

## 循環型社会形成推進交付金事業チェックリスト

事業主体ではなく県の担当課によるチェックをお願いします。

事業 : 循環型社会形成推進交付金  
 事業主体 : 〇〇市  
 総事業費 : 6,500,000,000  
 施設 : 高効率ごみ発電施設

チェック項目		チェック欄 (✓で記入。該当なければ-を記入。)	備考	記入した根拠
<b>① 交付対象設備等に関するチェック事項について</b>				
<b>ア.取扱要領に基づくチェック事項（以下の1から6は内容が互いに重複することもあるが、それぞれチェックして下さい。）</b>				
1	取扱要領等に列挙された、施設等ごとの対象設備以外は交付対象事業費に含めていない。	✓		交付対象内外色分け図、内訳書抜粋 等
2	構内道路のように、施設によっては交付対象になったり交付対象にならないといったりする設備等で、複数施設で共用する場合、その整備等に要する費用を案分して交付対象外分は交付対象事業費に含めていない。 (備考欄に判断方法を記入してください。)	✓	隣接するマテリアルリサイクル推進施設と按分	面積按分率表 等
3	管理事務室、会議室、見学者施設、玄関ホール、トイレ、廊下、車庫等の建築に要した費用を交付対象事業費に含めていない。（ここに列挙の項目は不適切計上の事例が多いものとなっているので、特にこれらが含まれていないことを一つずつ確認してください。）	✓		交付対象内外色分け図、内訳書抜粋 等
4	設備に係る予備品、消耗品、工具等の購入費を交付対象事業費に含めていない。	✓		内訳書抜粋（該当ページ）
5	取扱要領等に列挙された交付対象設備の設置に必要な建築物以外は交付対象事業費に含めていない。	✓		交付対象内外色分け図、内訳書抜粋 等
6	設備の設置に必要な建築物に要した費用について、交付対象施設分と交付対象外分に案分して、交付対象外分は交付対象事業費に含めていない。（備考欄に判断方法を記入してください。）	✓	交付対象内施設と対象外施設が混在する場合面積で按分	交付対象内外色分け図、面積按分率表 等
<b>イ.地域計画に基づくチェック事項</b>				
7	地域計画に基づく事業ではない工事に係る工事費等を交付対象事業費に含めていない。	✓		地域計画書抜粋
<b>② 現場管理费率について</b>				
8	現場管理費について、純工事費から特殊製品費※を適切に減額せず、算出していない。	✓		交付金計算書、内訳書抜粋 等
9	現場管理費について、取扱要領に定められた所定の率と異なる率を用いて算出していない。	✓		交付金計算書、内訳書抜粋 等
10	現場管理費について、積み上げで計算していても、取扱要領に定められた所定の率の範囲を越えていない。	-	率で計上	交付金計算書、内訳書抜粋 等
<b>③ 一般管理费率について</b>				
11	一般管理費について、取扱要領に定められた所定の率と異なる率を用いて算出していない。	✓	10.50%	交付金計算書、内訳書抜粋 等
12	一般管理費について、積み上げで計算していても、取扱要領に定められた所定の率の範囲を越えていない。	-	率で計上	交付金計算書、内訳書抜粋 等
<b>④ 事務費について</b>				
13	事務費に含めることとされている業務委託に係る委託料を工事費に含めていない。	✓		内訳書抜粋（該当ページ）
<b>⑤ その他</b>				
14	鉄くずの売却収入を事業費から控除している。	✓		内訳書抜粋（該当ページ）
15	設備等の落雷対策について、「建築物等の避雷設備（避雷針）（JIS A 4201-1992）」に適合している。	✓		設計図面等抜粋

※特殊製品費（循環型社会形成推進交付金交付取扱要領 付表より）

特殊製品とは、次のものをいう（一部列挙。このほか循環型社会形成推進交付金交付取扱要領別表1のⅢ交付対象事業費の算定要領(3)特殊製品を参照）。

管、弁類、ポンプ、モーター、コンクリート製並びに鉄製杭、計測設備、電気設備、破碎機、圧縮機、切断機、脱臭設備、脱水機、攪拌装置、ウェストバーナー、脱硫装置（主として乾式）、撤水機、滅菌機、プロアー、ボイラー、加温設備、汚泥かき寄せ機、高圧ポンプ、コンプレッサー、熱交換機、反応塔、油圧装置、コンベア、レンガ、スタッカーアー、灰出し設備、電気集じん機、サイクロン、その他完成された製品として設置することによって効用を發揮するものをいう）。ただし、現場加工されるものを除く。

## 参考資料（循環型社会形成推進交付金事業チェックリスト）

( 施設) 下記(3)の4施設のうち、該当施設名を記載してください。

事業(整備)期間:	27~29	事業主体名(組合等は所在市町村を( )に記載):	
事業費(円):	4,555,222,000	交付対象事業費(円):	4,000,000,000

### 廃棄物処理施設における設備等に係る交付対象事業費の算定状況調べ

廃棄物処理施設、設備等名	設備等の有無	設備等の交付対象の内外	設備等に係る建築物の交付対象の内外	備考
(3) エネルギー回収型廃棄物処理施設、エネルギー回収推進施設、高効率ごみ発電施設、高効率原燃料回収施設	施設に左記設備等が設置されている場合は「○」を、設置されていなければ「-」を選択してください。	1欄に○を入力した設備等の事業費について、以下のように選択してください。 交付対象(内)として算定:「○」 交付対象(外)として算定:「-」	1欄に○を入力した設備等の事業費について、以下のように選択してください。 交付対象(内)として算定:「○」 交付対象(外)として算定:「-」 交付対象(内)(外)が混在している場合:「混在」	3欄に「混在」を選択した場合、当該設備等に係る建築物の事業費の算定に当たり、交付対象内外の事業費をどのように案分したかご説明ください。 補足説明等を記載してください。
① 受入・供給設備(搬入・退出路を除く。)	○	○	○	予備分は対象外
② 前処理設備	○	○	-	
③ 固形燃料化設備・メンタん等発酵設備・その他ごみの燃料化に必要な設備	-			
④ 燃焼設備・乾燥設備・焼却残さ溶融設備・その他ごみの焼却に必要な設備	○	○	-	
⑤ 燃焼ガス冷却設備	○	○	混在	⑫排水処理設備と混在
⑥ 排ガス処理設備(湿式法の設備を除く。)	-			
⑦ 余熱利用設備・エネルギー回収設備(発生ガス等の利用設備を含む。)	○	○	-	
⑧ 通風設備	○	○	○	
⑨ 灰出し設備(灰固化化設備を含む。)	○	○	○	
⑩ 残さ物等処理設備(資源化設備を含む。)	-			
⑪ 搬出設備	○	○	○	
⑫ 排水処理設備(湿式法による排ガス処理設備からの排水処理に係る部分を除く。)	○	○	混在	延べ床面積で案分 ⑫燃焼ガス冷却設備と混在
⑬ 換気、除じん、脱臭等に必要な設備	○	○	○	
⑭ 冷却、加温、洗浄、放流等に必要な設備	○	○	○	
⑮ 薬剤、水、燃料の保管のための設備	-		-	
⑯ 消火設備その他火災防止に必要な設備	○	○	-	
⑰ その他の設備(太陽光発電設備)	○	-	-	
⑱ 前各号の設備の設置に必要な電気、ガス、水道等の設備	○	○	○	
⑲ 前各号の設備と同等の性能を発揮するもので前各号の設備に代替して設置し使用される備品(ただし、前各号の設備を設置し使用する場合と費用対効果が同等以上であるものに限る。)	-			
⑳ 前各号の設備の設置に必要な建築物				
㉑ 搬入車両に係る洗車設備	-			
㉒ 電気、ガス、水道等の引込みに必要な設備	○	○	○	
㉓ 前各号の設備の設置に必要な擁壁、護岸、防潮壁等	○	○		
A 管理事務室等	○		-	
B 会議室	-			
C 見学者用施設等	○		-	
D 玄関ホール	○		-	
E トイレ	○		-	
F 廊下	○		-	
G その他(ストックヤード、車庫)	○		-	車庫棟は対象外

基礎に係る交付対象事業費の範囲	杭に係る交付対象事業費の範囲	土地造成に係る交付対象事業費の範囲
基礎の工事費について、交付対象設備に係る部分と交付対象外設備(事務室、見学者ホール等を含む)に係る部分とを案分(面積、容積等)して交付対象(内外)となる事業費を算出している場合は○を、案分していない場合は×を入力してください。	杭の工事費について、交付対象設備に係る部分と交付対象外設備(事務室、見学者ホール等を含む)に係る部分とを案分(面積、容積等)して交付対象(内外)となる事業費を算出している場合は○を、案分していない場合は×を入力してください。	土地造成費を交付対象事業費に計上している場合、廃棄物処理施設設置に必要な最小限度の用地造成に必要な費用分のみを交付対象(内)として事業費を算出している場合は○を、最小限度の用地造成に必要な費用分としていない場合は×を入力してください。
		10欄の回答が×の場合、その算出方法、内容等について記載してください。

#### 【添付書類、留意事項】

- (1) 各設備、事務室等について、平面図上に交付対象の内外を示したもの(色分け、凡例要)を提出してください。その際、上記①~⑯、A~Gの記号を平面図上に赤で記載してください。
- (2) ⑯その他の設備及びGその他区分に該当がある場合、( )内に該当設備等を記載してください。
- (3) 「G その他」に該当する設備等が複数ある場合は、下の行をコピーし、作成してください。
- (4) 6~11は該当する費用がない場合、「-」を入力してください。

## 【記載例（工事名）】

(円)

項目	金額	算定金額		
		現場管理費率等	交付対象事業費	交付対象外事業費
直接工事費①	773,420,000		646,192,000	127,228,000
直接工事費のうち特殊製品費②	555,954,000		555,954,000	0
支給品費③	0		0	0
共通仮設費④	21,868,000		18,301,000	3,567,000
純工事費⑤ (①+④)	795,288,000		664,493,000	130,795,000
現場管理費⑥ ( (⑤-②)/2+③) × 現場管理費率)	36,723,000	7.50%	28,988,000	7,735,000
工事原価⑦ (⑤+⑥)	832,011,000		693,481,000	138,530,000
一般管理費⑧ (⑦×一般管理費率)	93,184,000	11%	77,669,000	15,515,000
その他工事	2,805,000		0	2,805,000
増額分経費	5,859,995		0	5,859,995
本工事費⑨ (⑦+⑧)	933,859,995		771,150,000	162,709,995
請負比率考慮後⑩	933,850,000		771,140,000	162,710,000
消費税相当額⑪	74,825,000		61,691,200	13,133,800
請負額⑫ (⑩+⑪)	1,008,675,000		832,831,200	175,843,800

判定



取扱要領で定められている一般管理費率より  
下回れば○ 上回る場合は×

## 【備考】

- (1) 工事ごとに上記表をご作成ください。 (1つの事業で複数工事を行った場合は、まとめずにご作成ください。)
- (2) 黄色着色部分をご入力ください。
- (3) 上記数字が確認できる資料（設計書等）を電子データでご提出ください。